長崎県文化財調査報告書第 213 集

都市計画道路池田沖田線街路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

Ⅰ

# 小 路 口 遺 跡

２０１７

長 崎 県 教 育 委 員 会

巻頭写真（中央は JR 大村線、その右側が都市計画道路。南から北を望む）

# 序　　文

本書は、都市計画道路池田沖田線街路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成25年度（2013）に実施した小路口遺跡の発掘調査報告書です。

長崎県教育委員会では、都市計画道路池田沖田線街路改築工事について、平成20年(2008)8月から可能な限り埋蔵文化財の保存に努めるべく、その取扱いについて県央振興局都市計画課と数回に渡り協議を行ってきました。その結果記録保存を前提とした発掘調査を実施する運びとなった次第です。

今回の調査では、縄文時代晩期から中･近世までの遺構、遺物が出土しました。こうした遺構、遺物は当時の地域社会を知るうえで極めて重要な歴史資料です。

埋蔵文化財は、地域の歴史を知る上で欠かすことのできない文化遺産であり、生の教育教材でもあります。本書に収録された資料が永く保存され、文化財に対する愛護思想の普及、また学校教育、生涯学習及び学術研究の分野においても役立つことを願うものです。

本書を刊行するにあたり、県央振興局都市計画課、発掘作業に従事した方々をはじめ多大なご尽力をいただきました関係各位に対し厚く御礼申しあげます。

平成29年2月

長崎県教育委員会教育長
池　松　　誠　二

# 例　言

1. 本書は、都市計画道路池田沖田線街路改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書である。調査は長崎県県央振興局都市計画課から依頼を受け、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所が平成25年度から29年度までの計画で実施している。
2. 本書には当該道路建設に伴い平成25年度に発掘調査を実施した「小路口遺跡OROO201306」の資料を収録した。
3. 小路口遺跡は、長崎県大村市鬼橋町1097番地3他に所在し、発掘調査面積は、2,000㎡。調査期間は平成25年6月26日～平成25年10月30日まで実施した。発掘調査担当は文化財保護主事山梨千晶、文化財調査員新井実和である。なお事前の範囲確認調査は平成24年7月23日～平成24年8月3日まで長崎県埋蔵文化財センター係長町田利幸、文化財調査員今西亮太が実施した。範囲確認調査面積は40㎡である。
4. 本書に掲載した遺物実測図と遺物写真は縮尺をできる限り同率とした。
5. 遺構実測図は、株式会社イビソクの熊谷洋一、近藤美穂、木下　慧が中心となり縮尺1/10 、1/20 、1/100を基本として実施した。遺物実測図は久田ひとみ、久保田由佳、整理作業員の協力を得た。本報告書掲載時の縮尺は遺構及び全体図は1/40 、1/60 、1/100 、1/500 、1/600 、1/1000。遺物は1/3 、2/3とした。遺構、遺物はデジタルトレースを行い、レイヤー、線種等は凡例に記す。
6. 堆積土層の土色は「新版　標準土色帖」農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修を使用し、すべて目測で実施した。
7. 本書で使用した方位は座標北である。
8. 本書で使用した遺構写真は山梨千晶、新井実和、遺物写真は新井実和が実施し、久保田由佳の協力を得た。なお遺物写真撮影について長崎県立大村城南高等学校林隆広教諭より指導助言を頂いた。
9. 本書の執筆は山梨千晶、中川潤次が行い、編集は新井実和の協力を得て中川潤次が行った。第1章第4節、第Ⅲ章第1節（1)、第Ⅴ章まとめを山梨が行い、その他は中川が行った。
10. 小路口遺跡から出土した遺物、実測図面、写真等の記録資料は大村市久原2丁目1491に所在する長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所久原現場事務所に保管している。
11. 遺跡の略号は以下のとおりである。
    SP:柱穴　SK:土坑　NR:自然流路
12. 小路口遺跡の遺跡調査番号は「OROO201306」である。
13. 巻頭写真は、長崎県県央振興局都市計画課より空中写真掲載の協力をいただいた。

# 凡　　例

遺構、土器、石器の実測図は全てデジタルトレースで実施した。各遺構、遺物の縮尺線種、レイヤーは以下の通りである。

≪縮尺･線種･レイヤーについて≫

【土器】(S=1/3)

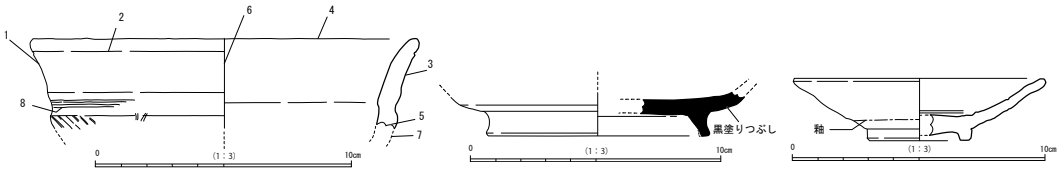
1. 外形線:0.3mm　2. 稜線:0.2mm　3. 断面線:0.5mm　4. 断面見通し線:0.3mm　5. 破断面:0.3mm
6. 中心線:0.3mm　7. 推定線:0.3mm　8. 成形線:0.1mm　9. 指圧痕:0.1mm

断面と見通し線間を5mm空ける。

稜線は器の外からうちに向かい長さを変える。線間隔は3mmとする。

陶磁器など施釉の表現のあるものは、釉薬を一点鎖線で表す。

須恵器の場合は断面を黒く塗りつぶす。



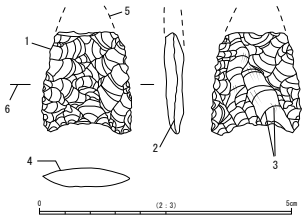

[網掛け]

塗布された範囲には、パターンスウォッチの「ベーシック_点」内「10dpi 10%」を40%縮小。

【石器】石鏃 (S=2/3)、その他 (S=1/3,S=1/2)

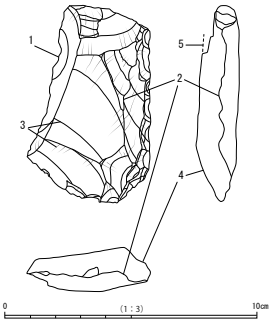
[石鏃] (S=2/3)

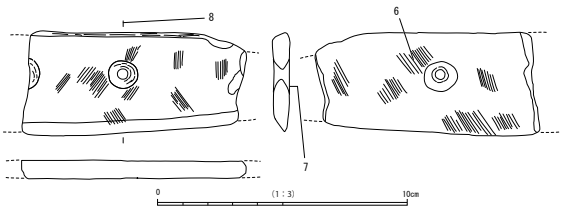
1. 外輪線:0.18mm　2. 稜線:0.1mm　3. リング･フィッシャー:0.06mm　4. 断面線:0.18mm
5. 推定線:0.1mm (破線)　6. 断面指示線:0.1mm




[その他の石器] (S=1/3)

1. 外輪線:0.36mm　2. 稜線:0.2mm　3. リング･フィッシャー:0.12mm　4. 断面線:0.36mm
5. 推定線:0.2mm (破線)　6. 成形線:0.12mm　7. 見通し線:0.2mm　8. 断面指示線:0.2mm



【遺構】

［平面］

1.　上端:仕上がり0.15mm相当　2.　中・下端:仕上がり0.1mm相当　3.　遺物・礫等外形:仕上がり0.15mm相当　4.　遺物・礫等稜線:仕上がり0.1mm相当　5.　ケバ:仕上がり0.1mm（可変線幅プロファイル4・先細り線）　6.　セクションポイント:仕上がり0.1mm相当

［断面］

7.　断面線:仕上がり0.3mm相当　8.　断面上端:仕上がり0.15mm相当　9.　土層線:仕上がり0.1mm相当

10.　礫・遺物等外形:仕上がり0.2mm相当　11.　レベル線:仕上がり0.1mm相当

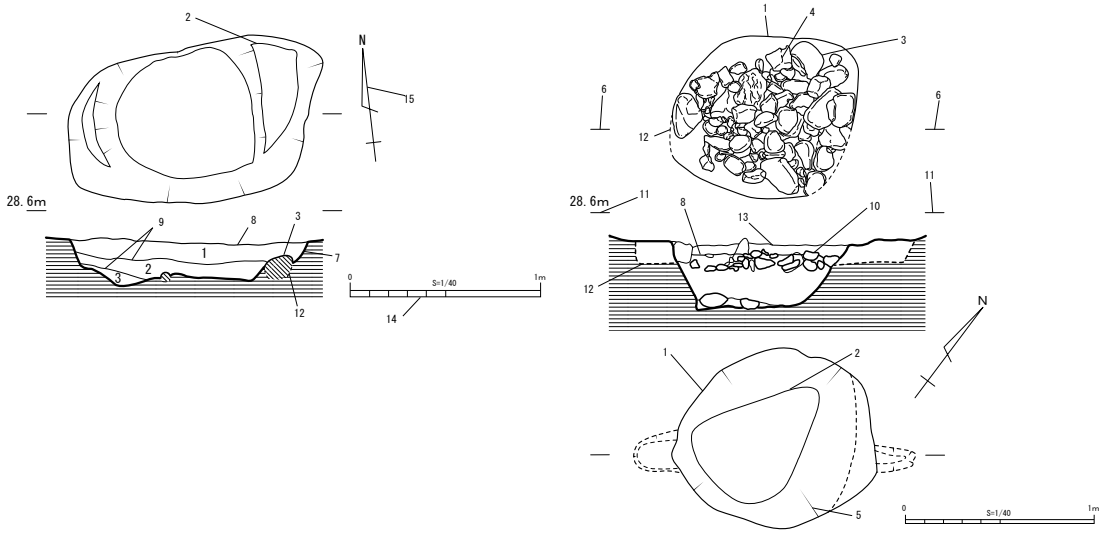
［その他］

12.　推定線:各線種より仕上がり0.1mm程度落とした破線　13.　見通し線:仕上がり0.1mm相当

14.　スケール:各線仕上がり0.2mm相当　15.　方位記号:0.2mm

［斜線及び地山部分へのライントーン］

パターンスウォッチ「ベーシック_ライン」の「10dpi 10%」を40%縮小。




【テキスト】

［図面上に記入するテキスト］

フォント:MSゴシック

サイズ:図のレイアウトに合わせて適宜ptを変更。

# 小 路 口 遺 跡

## 目　　次

巻頭写真
序文
例言
凡例
**第Ⅰ章　調査の経過** …… 1
**第1節　調査に至る経緯** …… 1
(1) 都市計画道路池田沖田線の概要 …… 1
(2) 範囲確認調査の経過 …… 2
(3) 範囲確認調査出土遺構、遺物について …… 5
**第2節　調査組織** …… 7
**第3節　調査の方法** …… 8
**第4節　調査の経過（調査日誌）** …… 10
**第Ⅱ章　遺跡の環境** …… 13
**第1節　地理的、歴史的環境** …… 13
(1) 遺跡の位置と地理的環境 …… 13
(2) 周辺の遺跡と歴史的環境 …… 13
**第Ⅲ章　各遺構の調査** …… 17
**第1節　遺跡の概要** …… 17
(1) 基本層序について …… 17
(2) 遺構、遺物の概要 …… 17
**第2節　各遺構、遺物について** …… 19
(1) SK01 …… 20
(2) SK02 …… 20
(3) SP01～44 …… 21
(4) NR01 …… 24
①縄文土器 …… 24
②弥生土器 …… 24
③土師器 …… 25
④石器 …… 25

第Ⅳ章　その他の遺物 ……33
第1節　包含層遺物について ……33
(1) 土器集中A･B、第Ⅲ層輸入白磁集中地点出土土器
第Ⅴ章　まとめ ……38

## 挿図目次

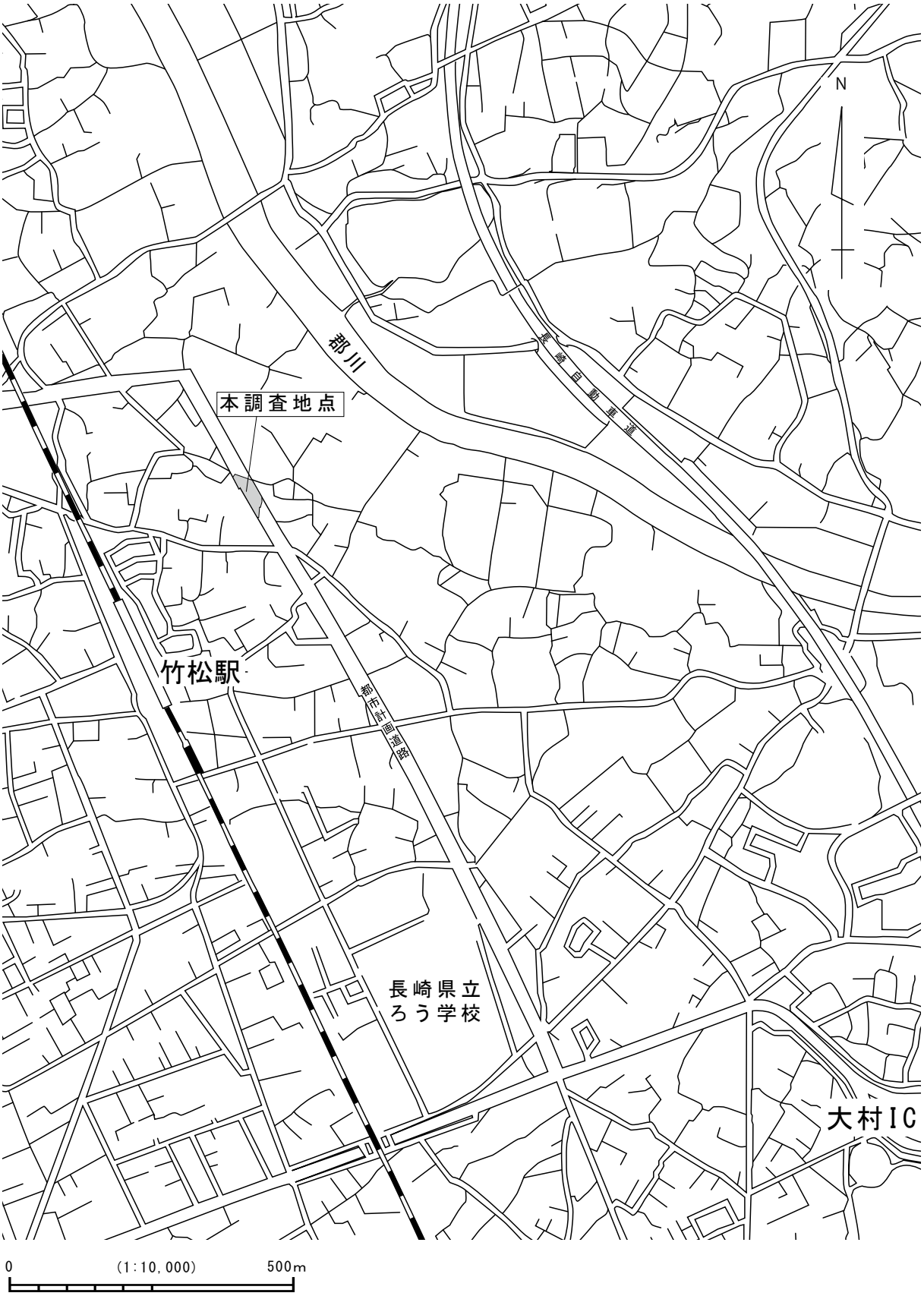
第1図　本調査範囲位置図（1/10,000）
第2図　都市計画道路「池田沖田線」計画図 …… 1
第3図　小路口遺跡範囲確認調査TP（試掘坑）配置図（1/1,000） …… 3
第4図　TP土層断面図（1/60）…… 4
第5図　範囲確認調査出土遺物実測図（1/3）（2/3）…… 6
第6図　グリッド割図（1/500） …… 9
第7図　遺跡分布図（1/50,000）……12
第8図　基本土層図（1/100）……17
第9図　Ⅲ層上面遺構配置図（1/600）……18
第10図　Ⅳ層上面遺構配置図（1/600）……19
第11図　SK01実測図（1/40）……20
第12図　SK02実測図（1/40）……20
第13図　SP01実測図（1/40）……21
第14図　SP01出土土器実測図（1/3）…… 21
第15図　SP09実測図（1/40）……21
第16図　SP15実測図（1/40）……21
第17図　SP20実測図（1/40）……21
第18図　SP35実測図（1/40）……22
第19図　SP39出土石器実測図（2/3）……22
第20図　SP39実測図（1/40）……22
第21図　SP40実測図（1/40）……22
第22図　SP43実測図（1/40）……22
第23図　NR01出土土器実測図（1）（1/3）……26
第24図　NR01出土土器実測図（2）（1/3）……28
第25図　NR01出土石器実測図（1/3）（2/3）……30
第26図　包含層出土土器実測図（1）（1/3）……34
第27図　包含層出土土器実測図（2）（1/3）……36

# 表目次

第1表　柱穴一覧表 ……23
第2表　NR01出土土器観察表 ……32
第3表　NR01出土石器観察表 ……32
第4表　包含層出土遺物観察表 ……36

# 図版目次

図版1　調査前 …… 2
図版2　作業風景 …… 2
図版3　TP1 …… 2
図版4　TP2 …… 2
図版5　TP3 …… 2
図版6　TP5 …… 2
図版7　TP10 土層断面（東から） …… 4
図版8　TP9　土層断面（東から） …… 4
図版9　TP8　土層断面（東から） …… 4
図版10 TP7　土層断面（東から） …… 4
図版11 TP6　土層断面（東から） …… 4
図版12 TP4　土層断面（東から） …… 4
図版13 遺跡遠景（南西から北東を望む） …… 5
図版14 範囲確認調査出土遺物 …… 6
図版15 作業風景 …… 8
図版16 作業風景 …… 8
図版17 作業風景 …… 8
図版18 作業風景 …… 8
図版19 作業風景 …… 8
図版20 作業風景 …… 8
図版21 作業風景 …… 8
図版22 作業風景 …… 8
図版23 作業風景 …… 10
図版24 作業風景 …… 10
図版25 作業風景 …… 10
図版26 A区第Ⅲ層上面全景（北西から） …… 18
図版27 A区第Ⅳ層上面全景（南から） …… 18
図版28 B区全景（西から） …… 19
図版29 B区完掘全景（真上から） …… 19
図版30 SK01半截状況 …… 20
図版31 SK01完掘状況 …… 20
図版32 SK02半截状況 …… 20
図版33 SK02完掘状況 …… 20
図版34 SP01出土土器 …… 21
図版35 SP01半截状況 …… 21
図版36 SP01完掘状況 …… 21
図版37 SP09半截状況 …… 21
図版38 SP09完掘状況 …… 21
図版39 SP15半截状況 …… 21
図版40 SP15完掘状況 …… 21
図版41 SP20半截状況 …… 21
図版42 SP20完掘状況 …… 21
図版43 SP35半截状況 …… 22
図版44 SP35完掘状況 …… 22
図版45 SP39出土石器 …… 22
図版46 SP39半截状況 …… 22
図版47 SP39完掘状況 …… 22
図版48 SP40半截状況 …… 22
図版49 SP40完掘状況 …… 22
図版50 SP43半截状況 …… 22
図版51 SP43完掘状況 …… 22
図版52 NR01出土土器（1） …… 27
図版53 NR01出土土器（2） …… 29
図版54 NR01出土石器 …… 31
図版55 包含層出土土器（1） …… 35
図版56 包含層出土土器（2） …… 37
図版57 遺物出土状況（輸入白磁） …… 38
図版58 遺物出土状況（勾玉） …… 38
図版59 遺物出土状況（土器集中A） …… 38
図版60 遺物出土状況（土器集中B） …… 38




第1図　本調査範囲位置図（1/10,000）

# 第Ⅰ章　調査の経過

## 第1節　調査に至る経緯

### (1) 都市計画道路池田沖田線の概要

大村市の中心市街地以南における幹線道路は、国道34号のみであり、慢性的な交通混雑が発生している。また池田沖田線の建設予定地周辺では市街化が進んでおり、狭小幅員の道路網の市街地を形成している状況にある。こうした状況を解消するため当該路線を整備することにより、久原池田線、富の原鬼橋線、国道444号とのネットワーク、また長崎自動車道大村IC、九州新幹線西九州ルート新大村駅、長崎空港とのアクセスを容易にし緊急時における円滑な交通の確保を図る。更にそのバイパス機能により混雑している国道34号の渋滞緩和に寄与し、ひいては災害上危険な市街地の解消につながることを目的として平成15年8月22日に都市計画道路「池田沖田線」延長3,420mが決定された。工事は2工区に分かれ小路口工区延長1,450m、(平成20年度～26年度)。竹松工区延長1,970mの（平成22年度～28年度）予定である。なお小路口工区は平成27年3月に供用開始となっている。

第2図　池田沖田線都市計画道路計画図（長崎県ホームページより）

## (2) 範囲確認調査の経過

都市計画道路池田沖田線街路改築工事予定地内は、周知の文化財包蔵地が点在しているため、埋蔵文化財の取扱いについて県央振興局都市計画課と平成20年度から事前協議を重ねてきた。

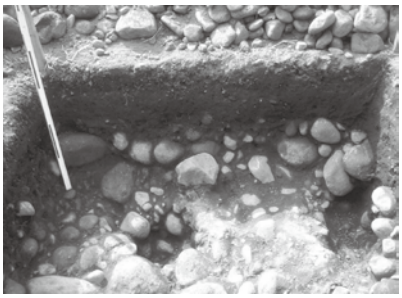
道路建設用地内の買収が進んだ平成24年5月11日、長崎県教育委員会学芸文化課は、県央振興局都市計画課と「小路口遺跡範囲確認調査及び道路建設予定地内の埋蔵文化財の取扱い」について事前の打ち合わせを実施し、後日現地で立会することを申し合わせた。

同年5月25日、道路建設予定地内を下見した県教育委員会、長崎県埋蔵文化財センター、新幹線文化財調査事務所は、小路口遺跡範囲確認調査の具体的方法を説明した。用地買収が完了した用地から20m間隔で2×2mの試掘坑を設定する予定である事、立ち退き宅地跡及び地形の状況などから設定箇所が変化する事、本調査になった場合大規模な調査が予想される事、川端遺跡（環濠の可能性有り遺構確認）と平野遺跡にも影響を与える可能性がある事等を通知した。しかしこの時点では建設予定地内の用地買収が進んでいないことも判明した。

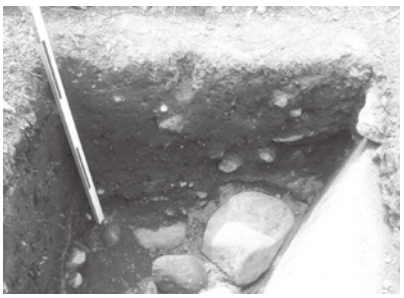
この会議を受け小路口遺跡の範囲確認調査を平成24年7月23日～8月3日まで長崎県埋蔵文化財センターが実施した。調査区は長さ200m、幅28mを調査対象地として遺跡範囲確認調査を実施した。試掘坑は10箇所設置し（TP1～10）、規模は2m×2mを9箇所、1m×4mを1箇所設定した。調査面積は40㎡である（第2図）。範囲確認調査の結果はTP6～10の周辺については2,000㎡で遺物包含層が残存している状況が認められ、出土遺物については縄文時代の黒色磨研土器、弥生土器、青磁、土師器、五角形鏃等が出土した。こうした状況を同年9月8日に県央振興局都市計画課に回答した。これを受け今後の工程等をすり合わせ協議を進めた結果、平成25年度当初から本調査を実施することで合意した。平成25年6月26日から小路口遺跡（2,000㎡）の本調査を開始し同年10月30日まで4か月を要した。

図版1　調査前

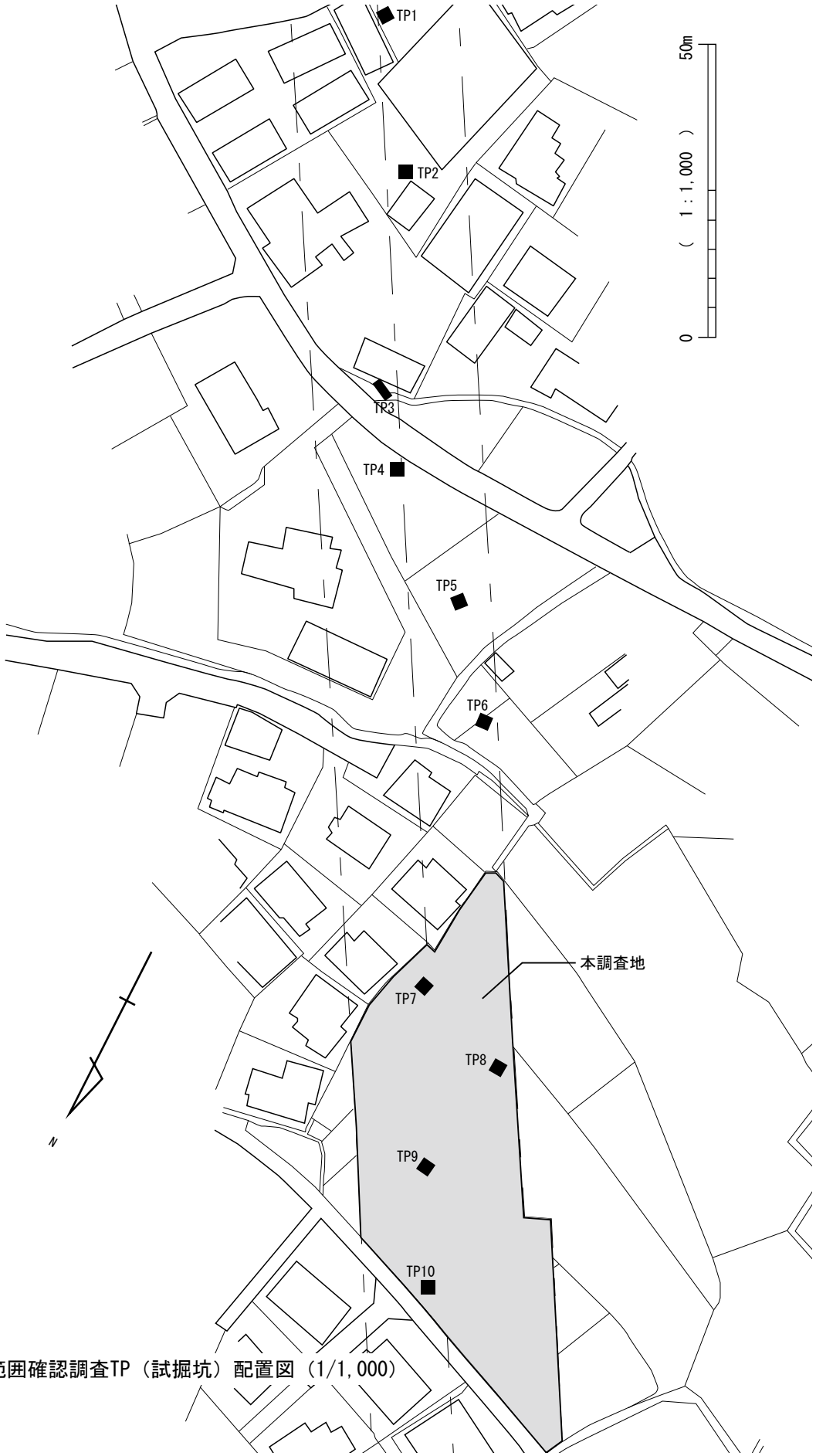
図版2　作業風景


図版3　TP1

図版4　TP2

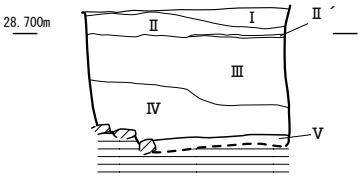

図版5　TP3

図版6　TP5




第3図　範囲確認調査TP（試掘坑）配置図（1/1,000）

TP10 西壁

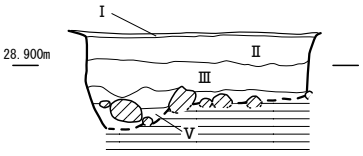



TP10

Ⅰ層　表土
Ⅱ層　明赤灰色土(Hue 2.5YR 7/2)
Ⅱ′層　橙色土(Hue 7.5YR 6/8)水田床土
Ⅲ層　黒色土(Hue 10YR 1.7/1)
土師器・弥生土器・縄文土器出土
Ⅳ層　黒色土(Hue 10YR 1.7/1)礫混じり
弥生土器・縄文土器出土
Ⅴ層　にぶい黄褐色土(Hue 10YR 4/3)
30～40cmの礫を多く含む

図版7 TP10土層断面（東から）

TP9 西壁

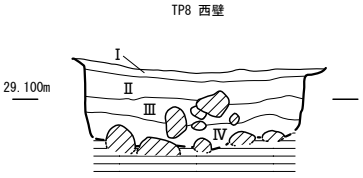



TP9

Ⅰ層　表土
Ⅱ層　黒褐色(Hue 10YR3/2)
～褐色(Hue 10YR4/6)土
土師器・輸入陶磁器出土
Ⅲ層　黒褐色(Hue 10YR3/3)粘質土
Ⅳ層　褐色(Hue 10YR3/3)粘質土
Ⅴ層　暗褐色(10YR3/3)粘質土

図版8 TP9土層断面（東から）

TP8 西壁

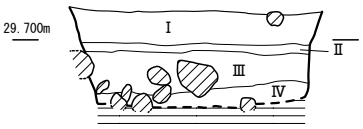



TP8

Ⅰ層　表土
Ⅱ層　暗褐色(Hue 10YR3/3)
～黄褐色(Hue 10YR5/8)粘質土
Ⅲ層　褐色(10YR4/6)粘質土
縄文晩期の黒色磨研土器出土
Ⅳ層　褐色(10YR4/4)粘質土

図版9 TP8土層断面（東から）

TP7 西壁

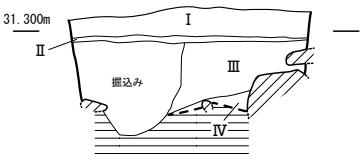



TP7

Ⅰ層　表土
Ⅱ層　黒褐色(Hue 10YR3/1)粘質土
青磁出土
Ⅲ層　黒褐色(Hue 10YR2/3)～暗褐色粘質土
縄文土器出土
Ⅳ層　暗褐色(Hue 10YR3/4)粘質土

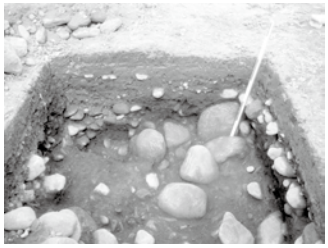
図版10 TP7土層断面（東から）

TP6 西壁



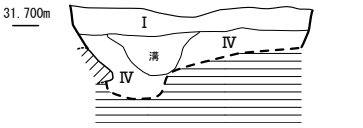

TP6

Ⅰ層　表土
Ⅱ層　明赤灰色(Hue 2.5YR 7/2)土
床土
Ⅲ層　暗褐色(Hue 7.5YR3/4)砂質土
Ⅳ層　明黄褐色(Hue 10YR6/6)土
30～40cm大の円礫が堆積
掘込み　近現代のもの
Ⅲ層の礫と土を入れ込んでいる



図版11 TP6土層断面（東から）

TP4 西壁




TP4

Ⅰ層　表土
Ⅳ層　明黄褐色(Hue 10YR6/6)土
30～40cm大の円礫が堆積
溝　暗褐色(Hue 7.5YR3/4)土
近代陶磁器を含む

図版12 TP4土層断面（東から）

0　（S=1/60）　1m

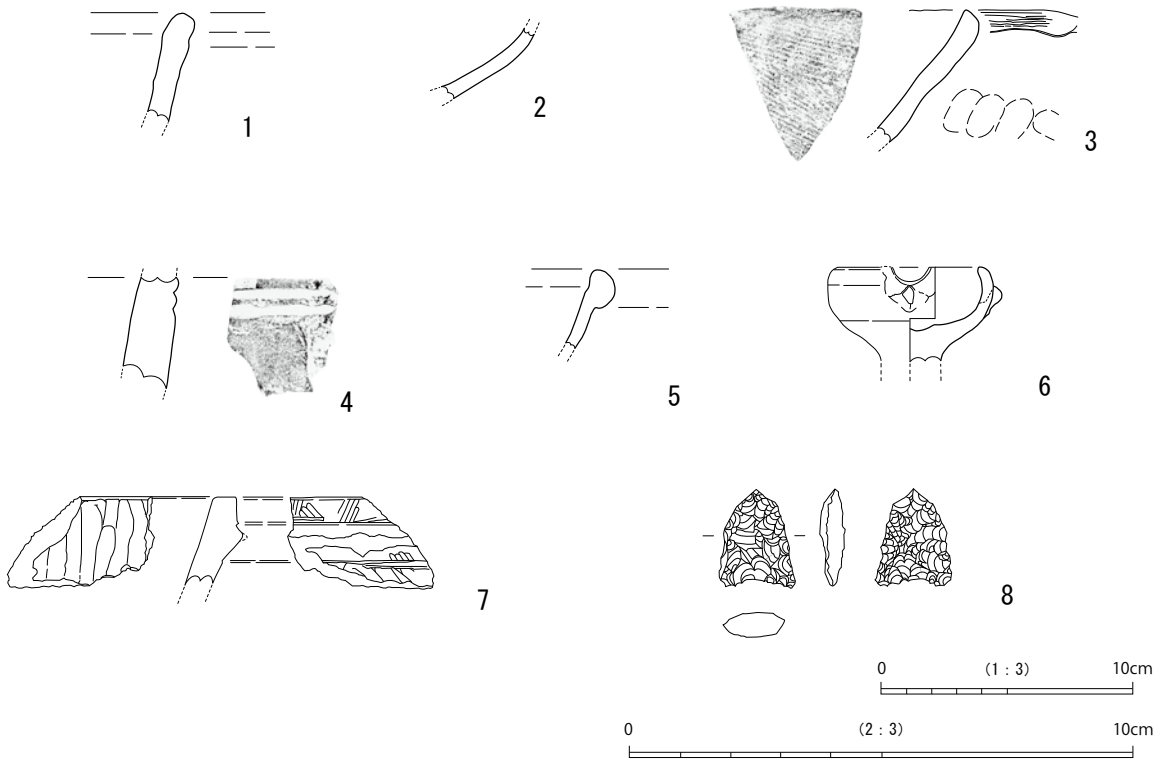
第3図　TP土層断面図（1/60）

### (3) 範囲確認調査出土遺構、遺物について（第4図・図版15）

範囲確認調査は平成24年7月23日～8月3日まで長崎県埋蔵文化財センターが実施した。調査区は長さ200m、幅28mを調査対象地として遺跡範囲確認調査を実施した。試掘坑は10箇所設置し（TP1～10）、規模は2m×2mを9箇所、1m×4mを1箇所設定した。調査面積は40㎡である。遺構の存在は確認できなかったが遺物包含層がTP6～10の間で確認できた。また遺物は縄文から近世までの土器、石器、鉄器等351点が出土した。以下遺物の説明を行う。

1はTP8の2層から出土した縄文晩期の黒色磨研土器浅鉢口頸部～体部片である。内外面は細かい磨きを施し丁寧な仕上げである。2はTP2の2層から出土した中世の瓦質土器鉢の口縁部片である。3はTP9の2層から出土した中世の瓦質土器の口縁～体部片である。内面に斜め方向のハケ目が明瞭に残る。外面はやや雑な仕上げで指圧痕が残る。4はTP8の2層から出土した中世の火鉢の胴部片である。2条の沈線を配し内面は火熱を受けやや乳白色に変色する。外面はナデ、削りにより丁寧な仕上げを施す。5はTP3の3層からの出土で近世肥前系の片口口縁部である。玉縁口縁を呈する陶器で光沢のある釉薬を掛けている。6はTP7の1層から出土した近世陶器片で黒釉の灯火具である。坏部片口で脚部は欠損する。7はTP6の2層撹乱から出土した滑石製石鍋で口縁部から鍔胴部にかけての破片である。内面はやや斜め方向に薄い削り痕を残し、外面は鍔部が欠損し胴部の削り痕が雑である。8はTP10から出土した縄文時代の五角形鏃で断面はレンズ状で石材は腰岳か牟田産の黒曜石と考えられる。

図版13　遺跡遠景（南西から北東を望む）




第5図　範囲確認調査出土遺物実測図（1～7は1/3、8は2/3）

図版14　範囲確認調査出土遺物

## 第2節　調査組織（平成25～28年度）

発掘調査組織

総括　長崎県教育庁　新幹線文化財調査事務所

所　長　副島　和明（平成25年度）　古門　雅高（平成26年度～）

課　長　杉原　敦史（平成26年度～）

庶務　課　長　田尻　清秀（平成25年～27年度）　小島　克孝（平成28年度～）

係　長　村川　逸朗（平成25年～27年度）　中尾　篤志（平成28年度～）

主任主事　浜口　広史（平成26年～28年度）

主　事　水口真理子（平成28年度～）

範囲確認調査担当　長崎県教育庁　長崎県埋蔵文化財センター

係　長　町田　利幸

文化財調査員　今西　亮太

発掘調査担当　長崎県教育庁　新幹線文化財調査事務所

文化財保護主事　山梨　千晶

文化財調査員　新井　実和

株式会社　イビソク

現場代理人　竹内　康晴

主任調査員　熊谷　洋一

調　査　員　近藤　美穂　木下　慧

整理報告書作業担当

文化財調査員　中川　潤次　新井　実和

整理作業員

横田愛子　宮崎寛光　大谷内美智代　永野朱美　谷中加恵　佐藤法子　長池澄子　黒木聡子
中里文子　中瀬多恵子　松尾幸弘　金子ちぐさ　瀬尾滝子

久田ひとみ　久保田由佳　の協力を得た。

## 第3節　調査の方法

小路口遺跡の範囲確認調査を実施した結果、遺構、遺物の出土状況から本調査面積を2,000㎡とした。これを基にして調査費用、調査日数、調査員、作業員等の人数を勘案し調査計画を策定した。

小路口遺跡はA区（西側）、B区（東側）とし、いずれも排土の除去作業が遺跡範囲内でしか処理できず、反転作業となった。調査区の土層断面は、用地境との間に一定の幅をもたせた所とし、堆積土層断面図を記録する事にした。

発掘区は消滅後も復元できるように、平面直角座標第I系を使用し4級基準点測量を世界測地系で実施した。グリッドは20mピッチで設定し、北西交点を基準にX座標の百の位、十の位、Y座標の百の位、十の位を順に並べグリッド名とした。例えばX座標―6262.000、Y座標42546.000の場合は「2654」グリッドとなる。

小路口遺跡はX座標―6220.000、―6260.000、Y座標42520.000を基準に東側に20mピッチでグリッドを設定した。上記の座標から遺跡の復元は可能である。

遺構検出作業はいずれの遺跡も重機による表土掘削作業の後は、人力による掘削で作業を行った。人力掘削では、削る道具と掘る道具を区別し検出作業に注意を払った。

遺構検出は、検出時、掘削途中、遺物出土状況、完掘後と慎重に各段階を踏まえ記録保存を実施した。

実測図作成は、全体図を1/100、個別遺構は1/20を基本とした。写真撮影は遺構検出の各段階で行い撮影方向を記した。カメラは6×7判はマミヤRZ67PROⅡ、35mmはニコンF3、FM10、デジタルカメラはSONYDSC―HX300を使用した。フィルムは6×7判は白黒、リバーサル、35mmは白黒、リバーサル、デジタルカメラは20M（5184×3888）サイズで撮影した。報告書作成時の遺物撮影はキャノン60Dを使用した。遺物の取り上げは重要遺物と思われるものは座標を記録しながら取り上げ作業を行った。

図版15　作業風景

図版16　作業風景

図版17　作業風景

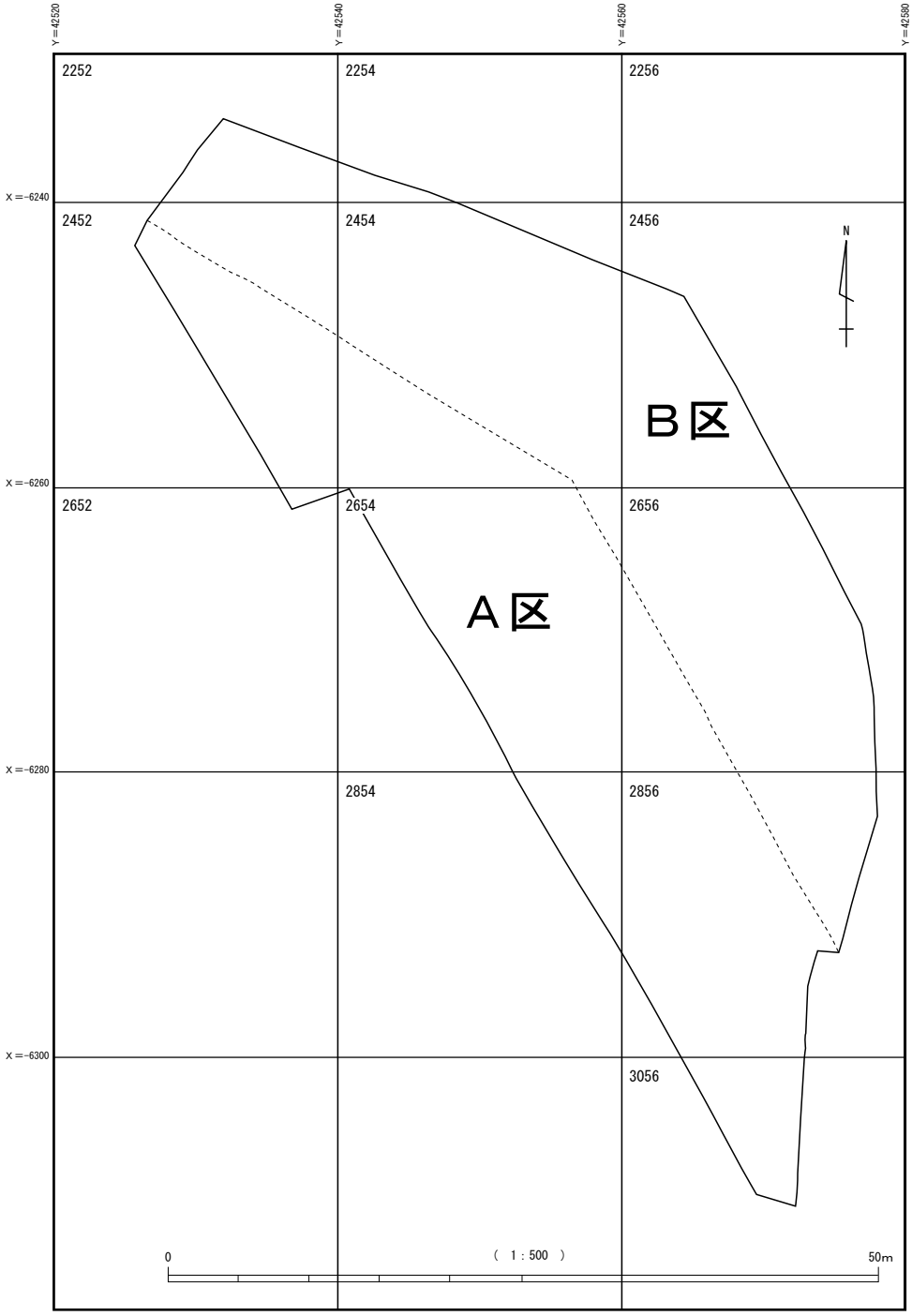
図版18　作業風景

図版19　作業風景

図版20　作業風景

図版21　作業風景

図版22　作業風景




第6図　グリッド割図（1/500）

図版23　作業風景

図版24　作業風景

図版25　作業風景

## 第4節　調査の経過（調査日誌）

### 平成25年7月8日（月）～11日（木）重機による表土除去作業

本日よりA区の表土除去作業を開始する。11日に終了。範囲確認作業時に取得した土層データから第Ⅲ層（黒褐色土）上面までを掘削範囲とした。A区西側から旧河川と思われる礫層を検出。土石流の堆積か。第Ⅲ層上面から黒曜石、土師器片の出土を見る。

基本土層となる黒褐色粘質土（第Ⅲ層）を確認する。この層から土師器片数点が出土した。

### 平成25年7月12日（金）～16日（火）発掘作業準備

本日より作業員の雇用を開始する。遺構検出作業に向けての作業準備を行う。シート養生、土のう作成、テント設置等を行う。また基準点、水準測量を併せて実施する。

### 平成25年7月17日（水）～26日（金）遺構検出及び遺構掘削作業

黒褐色土上面で遺構検出を開始する。土師器片、黒曜石、青磁片が出土した。旧流路内にトレンチを入れ、堆積状況の確認作業に入る。底まで掘削するかは未定である。熱中症対策として作業箇所にテントを配置する。ピット数基を検出する。柱痕が見えるものはない。18日から20mグリッド、4mグリッドの設置を開始する。19日に終了する。遺構の平面プランが判然としないため調査区北側にサブトレンチを設定し掘削を行う。15cm程掘り下げると礫層、褐色土に変わる。

遺構はSP1～8･SK1を検出、半截作業後に写真、断面実測を開始する。

### 平成25年7月29日（月）～8月2日（金）写真撮影及び遺構実測作業

SP1～8･SK1の断面実測終了。SP2～5･7･8の遺構掘削完了後平面図の作成に入る。

SP11･12の土層断面図の作成を開始する。SP6･9～13･SK1･2の完掘終了。遺構内の覆土は黒褐色土、礫混りが多い。SP6に柱痕跡？を確認した以外に柱痕は確認できない。また並ぶ柱穴は確認できない。31日に空撮を行う。空撮後黒褐色土（第Ⅲ層）の掘り下げを開始する。炭が散発的に出土するが遺構、遺物に付随するものではない。SK1の礫出土状況の実測を(1/10)開始する。出土遺物は黒曜石、土師器、縄文土器片、無茎石鏃（安山岩）が出土した。

### 平成25年8月5日（月）～8月9日（金）黒褐色土（Ⅲ層）の掘り下げ続行

黒褐色土（第Ⅲ層）の掘り下げ続行。縄文土器片、輸入陶磁器、弥生土器片が出土した。A区とB区の境付近でやや土器片が多く出土する傾向がある。土器集中とまではいかない。

盆休みに入るため現場内のシート養生、テントの撤収作業を行う。

### 平成25年8月19日（月）～8月23日（金）黒褐色土（Ⅲ層）下層の遺構検出開始

2452･2454･2654･2856･3056グリッドの遺構検出作業を実施する。またA区の調査区壁面に2m×0.5m

のトレンチを設置し掘削を開始した。結果は深さ0.6m程で礫層となった。遺物の出土はなく無遺物層と考えられる。

**平成25年8月26日（月）～8月30日（金）A区の調査終了、B区の調査開始**

2654･2656グリッドの遺構検出を続行。ピット数基を検出したが覆土が判然としない。全景写真準備。台風養生を行う。29日A区の調査を終了する。B区の表土除去作業を開始する。

**平成25年9月2日（月）～9月6日（金）B区表土除去、遺構検出作業**

B区の表土除去作業続行し5日に終了する。2654･2656･2856グリッドの遺構検出を開始する。弥生土器片が出土した。

**平成25年9月9日（月）～9月13日（金）遺構検出作業続行**

B区の堆積状況確認のためトレンチを北と南に設定し掘削開始。2454･2456グリッド遺構検出続行。包含層から勾玉出土。SP35～39の掘削を開始。

**平成25年9月17日（火）～9月20日（金）遺構検出作業、遺構掘削作業続行**

2252･2452･2454･2456グリッド遺構検出及び遺構掘削続行。第Ⅲ層礫集中部から貿易陶磁器白磁出土。時期は12世紀末～13世紀初頭頃の所産か。

**平成25年9月24日（火）～9月27日（金）遺構検出作業、遺構掘削作業続行**

2252･2452･2454･2456グリッド遺構検出及び遺構掘削続行。 SD1掘削開始。覆土からは土師器、弥生土器がまとまって出土した。第Ⅳ層上面までの掘削を終了する。

**平成25年9月30日（月）～10月4日（金）遺構掘削作業続行**

2454･2456グリッド黒褐色土掘削続行。A区の下層確認のため重機による掘削。B区北側のSD1の掘削続行。貿易陶磁器白磁出土。A区完掘状況測量開始。

**平成25年10月7日（月）～10月11日（金）掘削作業続行**

SD1の掘削続行し10日に掘削完了。その後平面図作成を開始する。A区北側完掘検査。その後埋戻しを開始する。台風養生を実施。包含層第Ⅲ層から丹塗り土器等を含む土器集中部を検出する。

**平成25年10月15日（火）～10月18日（金）掘削作業続行及び全景写真**

包含層第Ⅲ層掘削続行。SP43･44掘削。SD1掘削終了。SD1の全景写真撮影。空撮。
重機によるB区下層確認を開始する。17日閉所式。18日全景撮影、完掘測量開始。併行して撤収作業を開始する。

**平成25年10月21日（月）～10月25日（金）撤収準備**

撤収準備、図面確認。B区完掘検査、調査区埋戻し作業。成果品整理。

**平成25年10月28日（月）～10月30日（水）撤収**

機材搬出。完了検査を行い、すべての作業を完了する。

①野岳遺跡
②野田の久保遺跡
③野田古墳
④野田Ａ遺跡
⑤葛城遺跡
⑥玖島城跡
⑦嶽ノ下Ａ遺跡
⑧黒丸遺跡
⑨岩名遺跡
⑩竹松遺跡
⑪富の原遺跡
⑫冷泉遺跡
⑬稗田遺跡
⑭今富城跡
⑮黄金山古墳
⑯小路口鬼の穴古墳
⑰地堂古墳
⑱上小路口古墳
⑲沖田黒丸条里
⑳大上戸川条里
㉑好武城跡
㉒小路口遺跡

**第７図　遺跡分布図(1/50,000)**

# 第Ⅱ章　遺跡の環境

## 第1節　地理的、歴史的環境

### (1) 遺跡の位置と地理的環境

長崎県本土部のほぼ中央に位置する大村市は、東に多良山系、西に大村湾を望み、郡川、大上戸川が形成した扇状地上に広がる街である。郡川は、郡岳（こおりだけ)、経ヶ岳（きょうがたけ)、多良岳（たらだけ)、五家原岳（ごかはらだけ）の西斜面を水源とし大村湾へ注ぐ二級河川である。その源流は「黒木渓谷」と呼ばれ、多良岳県立自然公園の一部となっている。また多良山系の中で経ヶ岳は標高1,075.5mで、標高1,000m以上の山としては日本最西端に位置する。こうした山々が水源となった郡川は、山裾に深い谷を刻んで流れ下り田下町で南東方向から流れくる南ノ川内川と合流、今富町で北東方向から流れてくる佐奈川内川と合流する。寿古町、沖田町の境を流れ大村湾へ注ぐ。こうした郡川の流路が南北約6km、東西2.5kmに及ぶ大村扇状地を形成した。扇状地上では水田、畑作、果樹園等の多くの生産活動が行われ、特に梨、ブドウ、イチゴ等の生産が盛んで「フルーツの里」として県内外に知られた地域でもある。小路口遺跡は大村市鬼橋町1097番3他に所在する。

### (2) 周辺の遺跡と歴史的環境

小路口遺跡の周辺域には旧石器時代から近世まで多くの遺跡が確認されている。これらの遺跡分布から大村扇状地及びその周辺域は、各時代の人々の生産活動から生活域として利用していたことが継続的な発掘調査から解明されつつある。

大村扇状地では(2015年段階)旧石器時代の遺跡は確認されていないが、周辺域の標高40～270m付近では①「野岳遺跡」、②「野田の久保遺跡」、③「野田古墳」、④「野田A遺跡」、⑤「葛城遺跡」などが分布する。いずれもナイフ形石器、台状石器、角錐状石器、細石器を伴う後期旧石器時代の遺跡である。石材は腰岳･牟田系黒曜石が使用されている。

大村市内では109箇所の縄文遺跡が確認されている。(長崎県遺跡地図1994) この中で細石刃核が多数採取された「野岳遺跡」は旧石器時代後期の遺跡として著名である。早期末～前期の条痕文土器に伴う低湿地型貯蔵穴を検出した⑥「玖島城跡」、後期末の円形竪穴状遺構2基を検出した⑦「嶽ノ下A遺跡」、後期末～弥生中期の黒川式から刻目突帯文期の遺物がまとまって出土し、竪穴遺構1基、低湿地型貯蔵穴、埋甕などを検出した⑧「黒丸遺跡」、黒川式土器及び扁平打製石斧がまとまって出土した早期･晩期の⑨「岩名遺跡」、孔列文土器が出土した晩期の「野田の久保遺跡」が位置する。

縄文時代早期後葉頃（塞ノ神式～条痕文土器段階）になって徐々に低地への進出が始まり、大村扇状地に人々の生産活動の痕跡が認められるようになる。後期末から晩期にかけて竪穴住居跡が確認された遺跡は、「嶽ノ下A遺跡」、「黒丸遺跡」、⑩「竹松遺跡」がある。「黒丸遺跡」では竪穴住居跡内で石組み炉が検出され､また弥生時代早期の低湿地型貯蔵穴（ドングリ貯蔵穴）が62基発見されている。

大村扇状地における弥生時代の遺跡は弥生早期～終末の「黒丸遺跡」、縄文時代から近世にかけての複合遺跡で、特に弥生時代の遺構が主体をなす「竹松遺跡」、中期初頭～後期前半の⑪「富の原遺跡」、後期の「岩名遺跡」、後期～終末の⑫「冷泉遺跡」、前期後半～中期中頃･弥生終末の⑬「稗田遺跡」を挙げることができる。

「黒丸遺跡」は縄文時代晩期終末から中･近世まで続く大村湾岸域最大の拠点集落である。この遺跡

では大陸系磨製石器の石包丁（擦り切り技法）、抉りのある柱状石斧、鋤、竪杵、膝柄、弓、ヤス、丸木船を模した舟形木製品が出土している。また黒丸遺跡沖田地区では中期の矢板列も検出されているが、初期水田に伴う遺構は未だ発見には至っていない。

「富の原遺跡」は大村扇状地の末端で大村湾沿岸に接する遺跡である。昭和55年（1980）工事中に成人甕棺が偶然発見され、中から副葬品として鉄戈が出土した。昭和56年～61年にかけて富の原遺跡の範囲確認調査が実施された。この中で弥生の墓域を2箇所（A地点、B地点）確認した。甕棺墓の周辺には多くの石棺墓が分布し、異なる墓制は共存しないという考え方があったが、平成4年（1992）の調査で石棺墓の中から供献された弥生土器が発見されその共存関係が確かめられた。A地点の墓地は中期末～後期初頭、B地点の墓地は中期初頭～後期前半と長い。その他の小規模な墓地群も確認されている。墓地は10基前後を群としていることから血縁関係を有する集団の墓域であることが考えられている。AB両地点の成人甕棺墓から鉄戈3本と鉄剣1本が出土している。また数本の環濠が巡っている事から西九州では数少ない環濠集落である事も注目される。集落の形成は中期初頭から始まり、中期中頃に環濠が掘られ、中期後半頃には埋没している。後期前半には富の原遺跡は廃絶する。

「竹松遺跡」は縄文時代から近世にかけての複合遺跡で、特に弥生時代と古代が主体をなす。大規模な面的調査から弥生中期末～終末までの円形、方形竪穴住居跡群、石棺墓、甕棺墓が発見された。居住区域と墓域との位置関係から集落単位ごとの占有墓域が看取できそうである。

「岩名遺跡」は弥生後期前半の成人、小児甕棺墓を検出した。住居跡などは検出されていない。

「冷泉遺跡」は弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺跡である。遺構は円形、方形竪穴住居跡、石棺墓、配石墓が検出されている。3号石棺墓付近からは舶載鏡片（破鏡）が出土している。

「稗田遺跡」は⑭「今富城跡」の西側に位置する。弥生前期後半～中期中頃、弥生終末～古墳、中・近世までの遺跡である。弥生時代前期、中期の竪穴住居跡、古墳中期の住居跡を検出した。古墳時代の住居跡から出土した土師器は須恵器を伴わない時期のものである。

大村市内における古墳時代の遺跡は58件が確認されている(2013年段階)。

「冷泉遺跡」は弥生時代から古墳時代初頭まで継続する遺跡で竪穴住居跡、箱式石棺等が検出された。6号住居跡から出土した甕、高坏等から庄内系の土器の範疇で4世紀初頭頃の時期が考えられる。また2号竪穴住居跡からは5箇所の炉跡が検出され壁体の外周が5cm程被熱した状況から鍛冶に関する工房跡と想定されている。⑮「黄金山古墳」は郡川中流域の標高45m、「冷泉遺跡」から東へ200m程の低丘陵上に位置する。規模等は不明であるが石室構造は竪穴系横口式石室が変容したもので石棺系横口式石室と考えられている。出土遺物は古式土師器、鉄鏃、刀剣、鉄槍、人骨等が出土した。出土した土師器甕、高坏、壺等から4世紀末～5世紀前半頃の築造と考えられている。⑯「小路口鬼の穴古墳」は小路口遺跡から北北西に100m程に位置する。内部主体は南に開口する両袖複室の横穴式石室である。墳丘はやや不整形ではあるが直径20m程、高さは約3mの円墳であると考えられている。出土遺物は羨道入口南外側で須恵器甕片が出土した。また横穴式石室の構築方法から6世紀後半～7世紀初頭頃と推測される。⑰「地堂古墳」は「黄金山古墳」の南100m程の標高30mの独立丘陵の西側斜面に位置する。内部主体は複室の横穴式石室で「小路口鬼の穴古墳」の石室構造と類似する事から同時期頃の築造と思われる。⑱「上小路口古墳」は小路口遺跡の東800m程に位置する。畑の中に奥壁の一部が残存する。南に開口する横穴式石室である。

古墳の築造場所を概観するとすでに前期から平野部及び丘陵頂上部に築造が開始され、中、後期には丘陵上、斜面等に群集墳が築造されて行く様相が見られる。こうした様相は古い共同体の分解に伴って成立した家父長的家族の家父長層であろう。家父長的家族は扇状地から低丘陵へと生産活動を広げ、地域の中で古墳を築造するまでに成長した。その背景は鉄製品の普及拡散であろう。10基前後を群とする群集墳が各地域に形成されるのはこうした背景があると思われる。

古代の遺跡もまた多く分布している。肥前国は11郡から構成されており（肥前国風土記、和名抄、延喜式）、小路口遺跡は彼杵郡に位置する。彼杵郡は「肥前国風土記」では4郷（浮穴郷（うきあな）、周賀郷（すか）、彼杵郷、大村郷）の下郡、「和名抄」では2郷（大村郷、彼杵郷）の小郡となっている。下郡とは4～7里（1里は50戸、200戸～350戸）、小郡とは2～3里（100戸～150戸）の家しか存在しない極めて生産活動が小規模な地域であることが判断できる。その生産活動を示す遺跡が「郡川」河口域に広がる⑲「沖田黒丸条里」及び大上戸川流域の⑳「大上戸川条里」である。「沖田黒丸条里」は約80坪数（95ha）が認められ、「大上戸川条里」は約16坪数（19ha）が確認できている。

こうした条里生産遺跡が存在し古代官道（西海道）が通る地域に郡衙の存在が想定できる。彼杵郡衙が所在する場所については諸説あるが郡川河口域を想定している意見は多い。2011年～2016年度まで発掘調査した「竹松遺跡」では郡衙の所在を思わせる出土遺物、石帯、土馬、瓦塔、紡錘車（「木」「都」刻書あり）、墨書土器（有家）、硯、金属権、権状石製品等が出土しているが、郡衙を思わせる遺構の存在は検出されていない。

竹松遺跡（2015年度都市計画道路）から、ほぼ南北方向に沿った平安末頃（11世紀後半）の倉庫群8軒が発見されている。総柱建物(2間×4間、2間×3間)、側柱建物（1間×6間)、柵列、その他竪穴住居等を検出した。こうした倉庫群は周辺域から収穫される生産物その他を収納管理する倉庫群と考えられる。現在この遺跡は保存されている（倉庫群・竪穴住居等)。

また2012・2013・2014年度の調査では1辺が108mの区画溝を検出した。溝は真北に沿って南北方向に構築され、区画溝内部からは掘立柱建物6棟（総柱建物等2間×3間等、2面庇建物、側柱建物2間×5間等)、土塁が検出された。こうした状況から1町区画の居館跡であることが想定される。出土した貿易陶磁器、土師器、石鍋等から存続時期は12世紀後半～14世紀初頭が考えられている。古代末から中世にかけての郡川下流域一帯の様相が復原できる極めて重要な遺構である。居館跡、倉庫群ともに大村扇状地内における歴史的位置付けについて今後の本報告書で行う予定である。

また西九州では初めてとなる「カムィヤキ」が出土した。「カムィヤキ」窯跡は鹿児島県徳之島伊仙町に所在する。11世紀後半から14世紀前半まで操業した類須恵器で、器種は壺、甕、鉢、埦、水注が中心である。体、胴部にはヘラ描波状文が施され朝鮮半島系無釉陶器に製作技法が類似する。「カムィヤキ」製品の分布は沖縄から鹿児島までの南西諸島、南九州一帯で確認されている。またこの地域では西彼杵半島産の石鍋が供伴する。長崎県大村市で確認されたことから九州本島西回りの交易ルートが存在したことを如実に物語る。弥生時代より沖縄諸島から北部九州へ南海産の貝が運ばれてきた海上交易ルートが中世になっても存続していることを裏付けたことは極めて重要な意味をもつ。

中・近世の遺跡は寺社、城跡、水田遺構が所在する。㉑「好武城跡」は郡川下流域右岸に位置している。平城で周りは水田に囲まれ旧地形等は不明である。この城跡は「郡衙」推定地としての可能性も考えられており、古代～中世の多くの遺物が出土し、戦国期の遺物出土は少ない。

郡川中流域右岸、標高30mの独立丘陵上に「今富城跡」が位置する。国鉄大村線建設時に西側斜面をかなり土取りされ、また戦時中は高射砲を設置したため地形がかなり変化しているが不定形の広い曲輪を有する連郭式の城跡である。

以上、2つの城跡は大村氏が築造したものである。ところで大村氏の出自については諸説あるが、「橘中村文書」に「肥前国藤津郡能古見庄大草野村北方」と見えることからここを拠点とした地方豪族と考えられている。藤津郡から彼杵郡大村に拠点を徐々に移し始めたのは、鎌倉末頃（瀬野説）、貞治5年（1366）頃（久田松説）、16世紀頃(外山説)と諸説ある。いずれにせよ彼杵大村に本拠地を移すが鹿島藤津郡にも所領、居城は存在していた。しかし千葉氏、有馬氏、龍造寺隆信らの領土侵攻に伴い鹿島藤津郡の所領を完全に失う事となった。その後大村氏は彼杵郡を主所領とする大名家として幕末まで続く。また竹松遺跡では5箇所で中世末～近世の水田遺構を検出した。いずれも水路（土堤又は溝畦)、畦畔、水田面が確認され、水田構造が判断できる資料を得る事ができた事は、中･近世の地域社会を考える上で極めて重要な発見であったと言える。

参考文献

「大村市史」第一巻　自然･原始･古代編
「大村市史」第二巻　中世編
「大村市史」第三巻　近世編
大村市教育委員会「富の原遺跡」大村市文化財調査報告書第12集　1987
黒丸遺跡調査会「黒丸遺跡」1980
「有明海をめぐる弥生時代集落と交流」長崎県考古学会･肥後考古学会合同大会　2012
吉村靖徳「権衡に関する一考察」九州歴史資料館研究紀要20　1995
新里亮人「徳之島カムィヤキ古窯産製品の流通とその特質」先史学･考古学論究Ⅳ　2003
木下尚子「南島貝文化の研究」貝の道の考古学　1996

# 第Ⅲ章　各遺構の調査

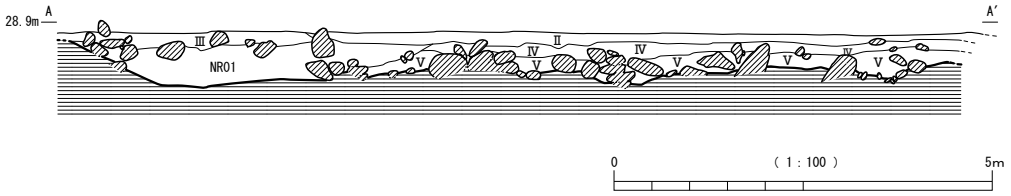
## 第1節　遺跡の概要

### (1) 基本層序について

小路口遺跡は標高29～32mの扇状地上に位置する。範囲確認調査では10箇所のTP（試掘坑）を設定し検出を行った。その結果、TP6～ TP10にかけて遺物包含層が残存している状況が確認できた。基本土層は5層から成る。第Ⅰ層はほぼ剥ぎ取られ、第Ⅱ層（古代･中世）暗灰褐色土、第Ⅲ層（弥生中期～中世の遺物包含層）黒色土、第Ⅳ層黒褐色から褐色土である。出土遺物は第Ⅱ層から貿易青磁、土師器、第Ⅲ層から黒曜石剥片、駒形石鏃、縄文土器である。こうした状況を踏まえ本調査に望んだ。本調査ではB区の北西部分を基本土層とした。基本土層は以下のとおりである。

第Ⅰ層　　耕作土、床土
第Ⅱ層　　橙色の細粒を含む暗灰褐色土（中世～近世の遺物を含む）
第Ⅲ層　　黒色土（弥生中期～中世の遺物包含層）
第Ⅳ層　　黒褐色土～褐色を呈する漸移層
第Ⅴ層下　　人頭大の礫を密に含む褐色土　大村扇状地の基盤となる大村礫層が堆積する

以上が基本土層となる。全体的な状況は中央から南側において表土直下で礫層が現れる状況が確認でき､中央から北側ではやや安定した土層状況が得られた。（山梨）

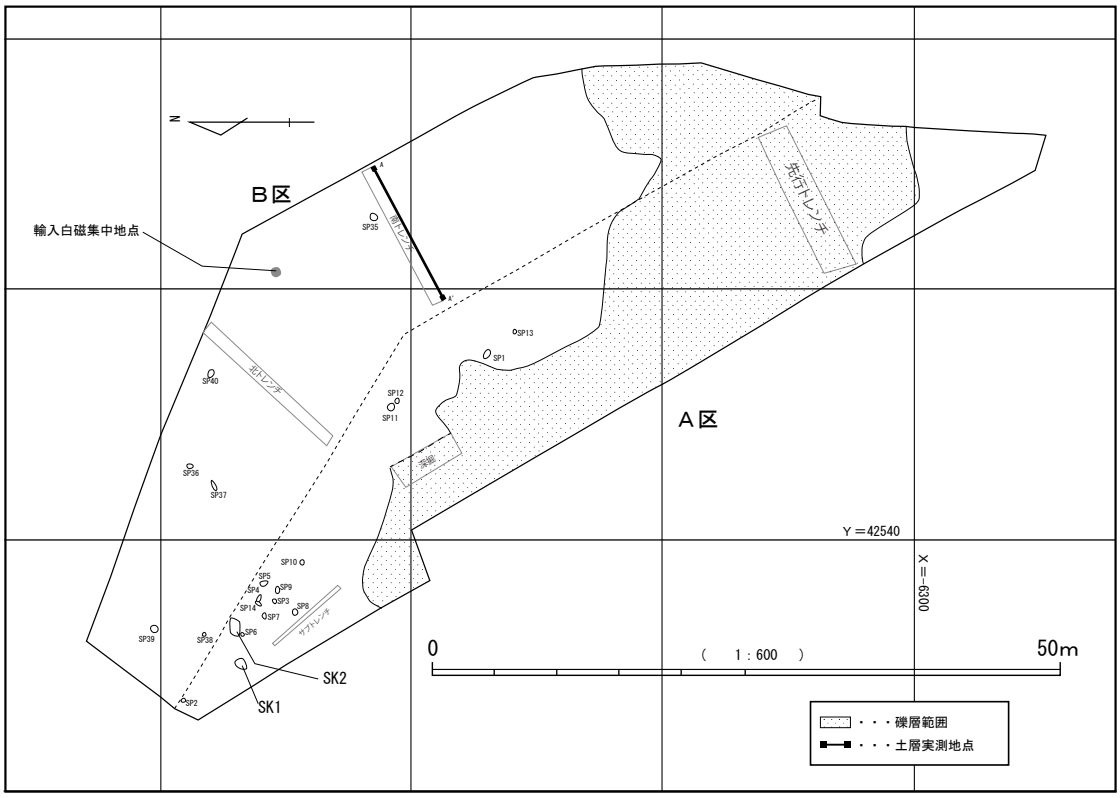



第8図　基本土層図（1/100）※土層の記録箇所は、第9・10図参照

### (2) 遺構、遺物の概要

遺構面は2面（第Ⅲ･Ⅳ層）で土坑（SK)2基、柱穴（SP)44基、自然流路（NR)1条を検出した。

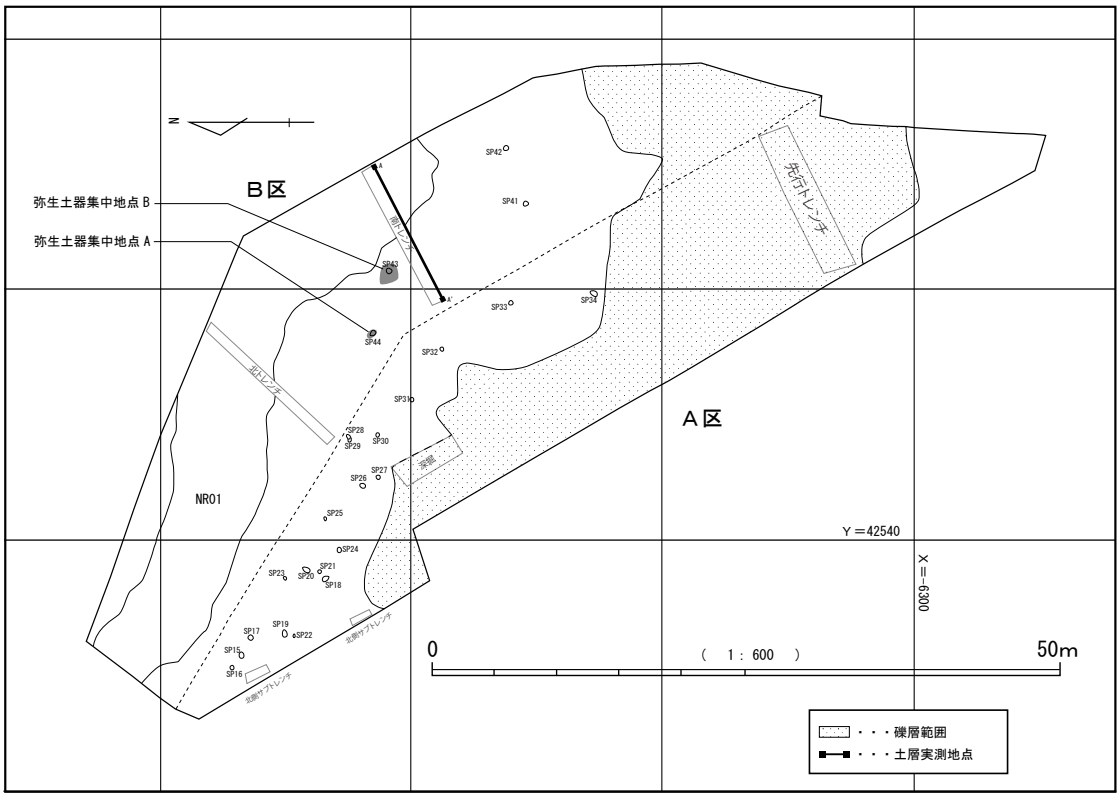
遺構は2454グリッドで2箇所の弥生土器の集中部を確認した。その下部で2基の柱穴を検出した。縄文晩期土器、黒曜石剥片、石鏃、弥生後期土器、古墳時代前期の土師器、須恵器、流路直上の黒色土から勾玉2点､古代～中世の遺物は自然流路内から11世紀末～12世紀初頭の貿易白磁､小皿（カワラケ）がまとまって出土した。出土状況から考えて本来は土坑に伴うものであろう。今回の調査では全体的に遺構は少なく小路口遺跡本体の東端にあたるものと考えられる。




第9図　Ⅲ層上面遺構配置図（1/600）

図版26　A区第Ⅲ層上面全景　（北西から）

図版27　A区第Ⅳ層上面全景　（南から）




第10図　Ⅳ層上面遺構配置図（1/600）

図版28　B区全景　（西から）

図版29　B区完掘全景　（真上から）

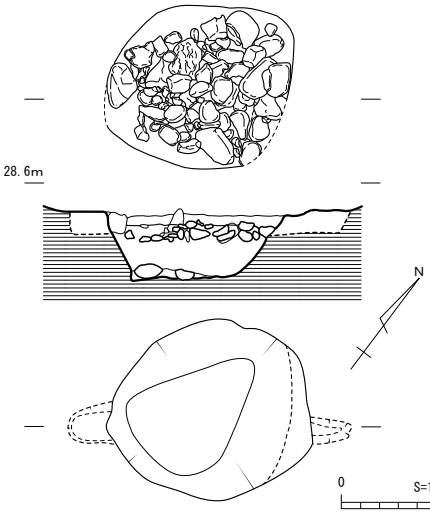
## 第2節　各遺構、遺物について

調査区はA区（東側）･B区（西側）に分かれる。遺構は中心部から北、北西端に集中する。A区から

は土坑2基（SK01・02）、柱穴34基（SP01～ SP34）、B区からは柱穴10基（SP35～ SP44）、自然流路1条（NR01）を検出した。遺構は第Ⅲ層上面、下面、第Ⅳ層上面で検出した。第Ⅲ層上面SK01・02・SP01～14・SP35～40。第Ⅲ層下面SP41～44。第Ⅳ層上面SP15～34である。以下個別遺構の説明を行う。

## （1）SK01

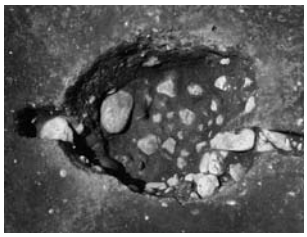
調査区北西端に位置し第Ⅲ層上面で検出した。中心長軸0.96m、短軸0.86m、深さ0.34mを測る。平面プランはやや隅丸方形を呈する。検出時の覆土は褐灰色弱粘質土で10cm程掘削した時点で人頭大及び拳大の礫が堆積した状況で検出した。遺構内の覆土は褐灰色弱粘質土、黒褐色粘質土の2層である。壁面の立ち上がりはやや急で床面は平坦である。遺物は覆土から黒曜石チップ小片が出土した。




1. 2.5Y4/1　黄灰色粘質土：
   15cm大の礫を含む　細砂わずかに含む
2. 5Y4/1～2.5Y3/1：
   灰～黒褐色粘質土　拳大～15cmの礫を密に含む
   1層粘性弱く、細砂わずかに含む

第11図　SK01実測図（1/40）

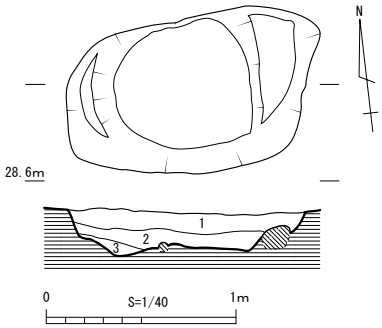
図版30　SK01半截状況



図版31　SK01完掘状況

## （2）SK02

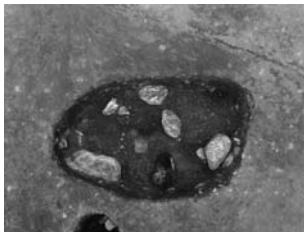
調査区北西隅SK01から南に1.8mに位置し第Ⅲ層上面で検出した。中心長軸1.26m、短軸0.8m、深さ0.18mを測る。平面プランは楕円形を呈し、覆土は3層に分かれる。上端から床面までの間はわずかなテラスを両端に設け床面の平面プランは円形を呈しやや凹凸が目立つ。壁はやや直線状に立ち上がる。遺物は出土しなかった。




1. 2.5Y3/1～4/1 黒褐色炭化物粘質土（シルト～粘土）：
   1～1.5cmの礫、褐色土ブロックをまれに、0.5cmの橙色粒をまばらに含む
2. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土（シルト～粘土）：
   2～10cmの礫をまれに含む、部分的に粗砂～小礫を多く含む
   1層より粘質が強く、きめ細かい
3. 2.5Y3/3～3/1 暗オリーブ褐色～黒褐色粘質土（シルト～粘土）：
   0.2cm以下の黄色粒をまれに含む

第12図　SK02実測図（1/40）

図版32　SK02半截状況

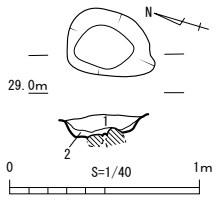


図版33　SK02完掘状況

## (3) SP01～44

柱穴は第Ⅲ層上面、下面、第Ⅳ層上面で44基を検出した。第Ⅲ層上面からSP01～14・SP35～40。第Ⅲ層下面からSP41～44。第Ⅳ層上面からSP15～34を検出した。検出した柱穴から建物配列等の復元はできなかった。遺物が出土した柱穴はSP01・09・15・20・35・39・40・43の8基で、いずれも覆土からである。

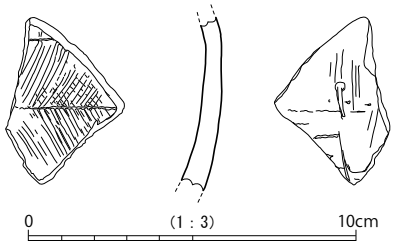
SP01は長軸50cm、短軸34cm、深さ11cmを測る。平面プランは楕円形を呈する。土師器小型壺？胴部小片及び近世染付磁器碗口縁部細片が出土した。




1. 10YR4/1 褐灰色粘質土（シルト～粘土）：
　1～5cmの円礫を密に含む　細砂をわずかに含む
2. 10YR3/1 黒褐色粘質土（シルト～粘土）：
　3～5cmの礫まれに含む　細砂をわずかに含む
　1層よりもシルトの割合が多く、粘性は弱い

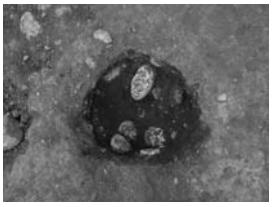
第13図　SP01実測図（1/40）

図版34　SP01出土土器



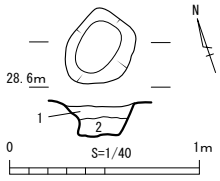

第14図　SP01出土土器実測図（1/3）

図版35　SP01半截状況



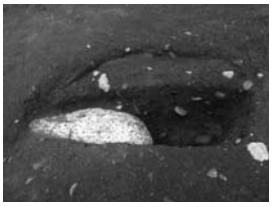
図版36　SP01完掘状況

SP09は長軸40cm、短軸34cm、深さ15cmを測る。平面プランは楕円形を呈する。黒曜石チップ小片が出土した石材は腰岳・牟田系黒曜石と推測される。

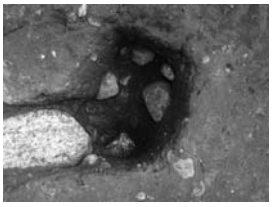



1. 2.5Y2/1 黒色粘質土（シルト～粘土）：
　2cmの礫をまれに、炭化物ごくまれに含む
　細～粗砂をわずかに含む
2. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土（シルト～粘土）：
　2cmの礫をごくまれに含む
　粗砂をわずかに含む

第15図　SP09実測図（1/40）

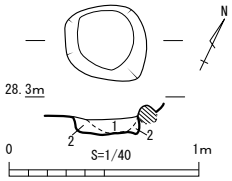


図版37　SP09半截状況



図版38　SP09完掘状況

SP15は長軸44cm、短軸40cm、深さ8cmを測る。平面プランは円形を呈する。縄文後期条痕文土器浅鉢？口縁部片が出土した。



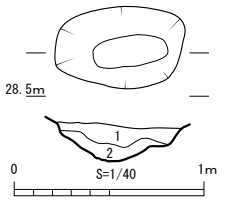

1. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土：
　細砂をわずかに含む
　黄・橙色粒、褐色土
　ブロックをまれに含む
2. 10YR4/4 褐色土砂質土：地山

第16図　SP15実測図（1/40）

図版39　SP15半截状況

図版40　SP15完掘状況

SP20は長軸66cm、短軸44cm、深さ20cmを測る。平面プランは楕円形を呈する。黒曜石チップ小片が出土した石材は腰岳・牟田系黒曜石と推測される。



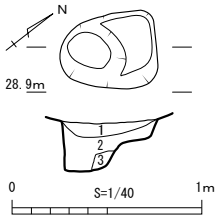

1. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土：
　細～粗砂わずかに含む
　2～3cmの礫まばらに含む
2. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土：
　粗砂わずかに含む
　1～2cmの礫まれに含む

第17図　SP20実測図（1/40）

図版41　SP20半截状況

図版42　SP20完掘状況

SP35は長軸50cm、短軸40cm、深さ24cmを測る。平面プランは楕円形を呈する。黒曜石チップ小片が出土した石材は腰岳・牟田系黒曜石と推測される。



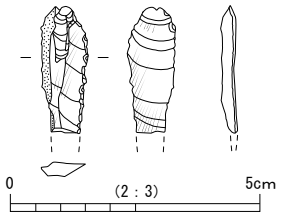

1. 2.5Y5/2 ～ 4/2 暗灰黄色粘質土：
細砂まじり、1 ～ 2 cmの礫をまばらに含む
2. 2.5Y3/1 ～ 3/2 黒褐色粘質土：
細砂ごくわずかに含む
0.2 ～ 2 cmの礫をまれに含む
しまりやや弱い
3. 2.5YR3/1 黒褐色粘質土：
灰黄色ブロックを含む
しまりやや弱く、粘性やや強い

第18図　SP35実測図（1/40）

図版43　SP35半截状況

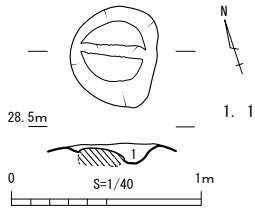
図版44　SP35完掘状況

SP39は長軸54cm、短軸54cm、深さ10cmを測る。平面プランは円形を呈する。UF1点及び黒曜石小片が出土した。石材は腰岳・牟田系黒曜石と推測される。




第19図　SP39出土石器実測図（2/3）

図版45　SP39出土石器



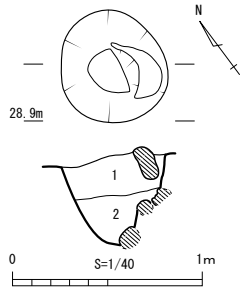

1. 10YR4/1 ～ 3/1 褐灰～黒褐色粘質土：
細～粗砂まばらに、1 cmの礫まれに含む

第20図　SP39実測図（1/40）

図版46　SP39半截状況

図版47　SP39完掘状況

SP40は長軸60cm、短軸56cm、深さ48cmを測る。平面プランは円形を呈する。黒曜石チップ小片が出土した石材は腰岳・牟田系黒曜石と推測される。



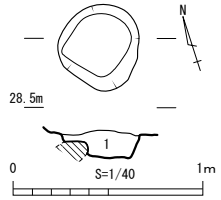

1. 10YR3/3 暗褐色シルト：
細～粗砂を含む 粘質非常に弱い
小礫、黄色粒を含む
根のカクランあり 黒色土まじり
2. 7.5YR2/3 極暗褐色粘質土：
灰黄色の層状ブロックを含む
拳大の礫をまばらに含む
しまりが強い

第21図　SP40実測図（1/40）

図版48　SP40半截状況

図版49　SP40完掘状況

SP43は長軸46cm、短軸44cm、深さ14cmを測る。平面プランは円形を呈する。弥生時代の丹塗土器小片が出土した。内外面に丹塗を施しており、やや焼成があまく軟質である。




1. 2.5Y3/1 ～ 4/1 黒褐～黄灰色粘質土（粘土～微砂）：
細～粗砂、5 ～ 10 cmの礫をまれに含む
10YR4/2 の地山？ブロックをまばらに含む

第22図　SP43実測図（1/40）

図版50　SP43半截状況

図版51　SP43完掘状況

その他の柱穴については遺物の出土がみとめられなかったため、法量、形状等を一覧表にまとめた。

第1表　柱穴一覧表（中心線で計測cm）

| 遺構番号 | グリット | 層位 | 長軸 | 短軸 | 深さ | 形状 | 備考（出土遺物等） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SP01 | 2654 | Ⅲ層上面 | 50 | 34 | 11 | 楕円形 | 土師器、磁器（染付け） |
| SP02 | 2452 | Ⅲ層上面 | 38 | 23 | 18 | 楕円形 | |
| SP03 | 2452 | Ⅲ層上面 | 23 | 19 | 10 | 楕円形 | |
| SP04 | 2452 | Ⅲ層上面 | 55 | 26 | 12 | 楕円形 | |
| SP05 | 2452 | Ⅲ層上面 | 63 | 46 | 17 | 楕円形（中場あり） | |
| SP06 | 2452 | Ⅲ層上面 | 34 | 30 | 19 | 楕円形 | |
| SP07 | 2452 | Ⅲ層上面 | 42 | 38 | 13 | 楕円形 | |
| SP08 | 2452 | Ⅲ層上面 | 32 | 25 | 19 | 楕円形 | |
| SP09 | 2452 | Ⅲ層上面 | 40 | 34 | 15 | 楕円形 | 黒曜石小片チップ |
| SP10 | 2452 | Ⅲ層上面 | 35 | 25 | 14 | 楕円形 | |
| SP11 | 2454 | Ⅲ層上面 | 52 | 44 | 24 | 楕円形 | |
| SP12 | 2454 | Ⅲ層上面 | 38 | 30 | 18 | 楕円形 | |
| SP13 | 2454 | Ⅲ層上面 | 36 | 25 | 15 | 楕円形 | |
| SP14 | 2452 | Ⅲ層上面 | 66 | 36 | 16 | 楕円形 | |
| SP15 | 2452 | Ⅳ層上面 | 44 | 40 | 8 | 楕円形 | 縄文土器深鉢口縁部 |
| SP16 | 2452 | Ⅳ層上面 | 28 | 24 | 10 | 楕円形 | |
| SP17 | 2452 | Ⅳ層上面 | 44 | 40 | 6 | 円形 | |
| SP18 | 2452 | Ⅳ層上面 | 40 | 35 | 11 | 楕円形 | |
| SP19 | 2452 | Ⅳ層上面 | 28 | 20 | 9 | 円形 | |
| SP20 | 2452 | Ⅳ層上面 | 66 | 44 | 20 | 楕円形 | 黒曜石小片チップ |
| SP21 | 2452 | Ⅳ層上面 | 24 | 20 | 12 | 楕円形 | |
| SP22 | 2452 | Ⅳ層上面 | 42 | 24 | 7 | 楕円形 | |
| SP23 | 2452 | Ⅳ層上面 | 28 | 22 | 10 | 隅丸方形 | |
| SP24 | 2452 | Ⅳ層上面 | 34 | 32 | 17 | 隅丸方形 | |
| SP25 | 2454 | Ⅳ層上面 | 27 | 24 | 8 | 楕円形 | |
| SP26 | 2454 | Ⅳ層上面 | 40 | 32 | 10 | 円形 | |
| SP27 | 2454 | Ⅳ層上面 | 43 | 34 | 24 | 円形 | |
| SP28 | 2454 | Ⅳ層上面 | 52 | 36 | 12 | 不整形 | SP29 から切られている |
| SP29 | 2454 | Ⅳ層上面 | 30 | 18 | 6 | 楕円 | SP28 を切っている |
| SP30 | 2454 | Ⅳ層上面 | 38 | 36 | 10 | 円形 | |
| SP31 | 2654 | Ⅳ層上面 | 22 | 20 | 7 | 楕円形 | |
| SP32 | 2654 | Ⅳ層上面 | 30 | 27 | 8 | 円形 | |
| SP33 | 2654 | Ⅳ層上面 | 35 | 30 | 7 | 円形 | |
| SP34 | 2654 | Ⅳ層上面 | 40 | 35 | 11 | 円形 | |
| SP35 | 2456 | Ⅲ層上面 | 50 | 40 | 25 | 楕円形 | 黒曜石小片チップ |
| SP36 | 2454 | Ⅲ層上面 | 40 | 32 | 6 | 楕円形 | |
| SP37 | 2454 | Ⅲ層上面 | 70 | 37 | 9 | 楕円形 | |
| SP38 | 2452 | Ⅲ層上面 | 32 | 31 | 8 | 隅丸方形 | |
| SP39 | 2252 | Ⅲ層上面 | 54 | 52 | 10 | 円形 | 黒曜石小片チップ |
| SP40 | 2454 | Ⅲ層上面 | 60 | 56 | 48 | 円形 | 黒曜石小片チップ |
| SP41 | 2656 | Ⅲ層下面 | 50 | 40 | 5 | 楕円形 | |
| SP42 | 2656 | Ⅲ層下面 | 42 | 36 | 17 | 楕円形 | |
| SP43 | 2456 | Ⅲ層下面 | 46 | 44 | 14 | 円形 | 弥生土器（丹塗り） |
| SP44 | 2454 | Ⅲ層下面 | 50 | 36 | 10 | 楕円形 | |

## (4) NR01

自然流路は、調査区中央部東端から北西方向に流れ、幅約7～8m、長さ50m程で、第Ⅳ層上面で確認した。流路内では多量の拳大～人頭大の円礫が散乱している状況から自然災害による土石流の痕跡であることが判断できた。また黒色土も礫の合間に入り込んでいることから同時期に流れこんだ様相が看取できた。こうした状況から遺物は上流からの流れ込みと考え集中した遺物については点上げ及び実測図で記録し、散布する遺物は単体で取り上げることにした。遺物の時代は縄文晩期から近世までと幅広い。以下時代別に実測図を掲載し、個別遺物の概要を記し、詳細は一覧表にて説明を行う。（第23～25、第2･3図）

**①縄文土器**

晩期を中心に磨研浅鉢、中鉢、組織痕鉢、粗製、精製深鉢が出土した。いずれも小片である。

1は磨研土器浅鉢の口縁部でやや内湾しながら立ち上がり口縁端部は丸く仕上げられる。口縁端部直下の外面で１条の細い沈線を施す。内面はやや窪み、下方で丸く仕上げる。

2は黒色磨研土器浅鉢の口縁部である。口縁部への立ち上がりは緩やかに外湾しながら口縁部へと立ち上がる。口縁端部は丸く仕上げ、口縁端部内面は僅かに窪む。外面で１条の浅い沈線を施す。全体的に磨き痕が残り丁寧な仕上げで雲母、角閃石が混入する。復元口径24.6cmを測る。

3は磨研土器浅鉢で口縁部は緩やかに外湾しながら立ち上がり、端部は丸く仕上げる。端部内面はやや窪みを呈する。胎土は雲母、石英が混入する。復元口径17.8cmを測る。

4は深鉢の口縁部である。緩やかに外反しながら立ち上がり口縁端部はやや尖り気味に仕上げられる。胎土は雲母の混入が認められる。

5は中鉢の口縁部片で口縁端部は丸く仕上げ外面はやや膨らむ。胎土は石英、雲母が混入する。

6は鉢？口縁部で2箇所の貼付突帯を有する。口縁端部は丸く仕上げられ内面は僅かに窪む。

7は条痕文土器で浅鉢？口縁部である。胎土には雲母が混入する。

8･9は組織痕土器で浅鉢？の胴部片である。9は網目圧痕で縦糸間隔が4～5mm、横糸間隔が4.5～5mmを測る。（糸の芯々間）

10･11･12は深鉢の底部で10･11は粗製土器である。いずれも平底で端部は丸く仕上げられている。12は中央でやや窪む。

13は鉢の底部である。平底を呈し中央付近で僅かに窪む。復元底径5.7cmを測る。

14は浅鉢？の底部片である。平底を呈し中央付近で窪む。復元底径6.7cmを測る。胎土に金雲母が混入する。

**②弥生土器**

15･16は壺胴部片で刻目突帯を有す。15の突帯の幅は5mm、高さ4mm、16の突帯の幅、高さは1cm程である。

17は甕の口縁部で傾きは水平ではなくやや上向きで端部は丸く仕上げられる。復元口径25.6cmを測る。中期末頃の所産であろう。18は壺の口頸部で端部は欠損する。19は直口壺の口縁部で復元口径10.4cmを測る。口縁部の立ち上がりはやや外反し端部は丸く仕上げる。全体的にハケ目のちナデ調整を行っている。20は二重口縁の壺である。口縁部はやや斜め方向に立ち上がり復元口径14.5cmを測る。21は台付甕の脚部である。復元底径8.8cmを測る。22は台付の鉢？の底部～胴部片である。短く広が

る脚部で端部は丸く仕上げている。復元底径6.6cmを測る。23は高坏脚部片である。脚部に4箇所の穿孔があり、うち1箇所が貫通している。

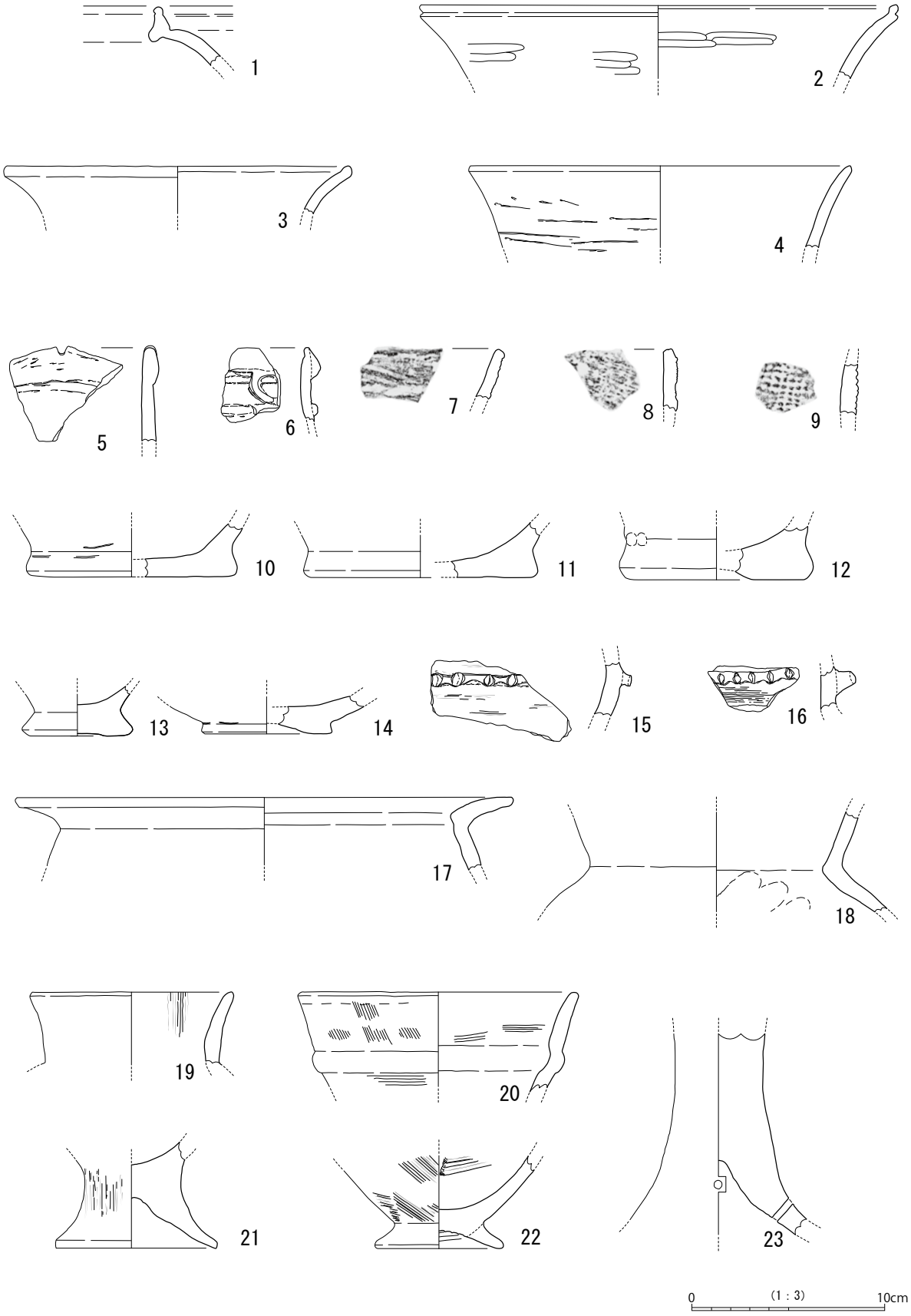
**③土師器**

24は土師器甕の口縁部～口頸部片である。立ち上がりは斜め方向に直線的で端部は丸い。復元口径15.6cmを測る。25は壺口頸部～胴部片である。26は土師器甕の口縁部～口頸部片である。立ち上がりはやや斜め方向に直線的に伸び、端部はやや台形状を呈する。復元口径は14.9cmを測る。27･28は土師器直口壺の口縁部片である。27はやや垂直に立ち上がる口縁部で端部は丸く仕上げられやや外側に反る。復元口径17.6cmを測る。28はやや外反気味に立ち上がり端部は丸く仕上げる。復元口径は15.2cmを測る。29～36は高坏である。29･30は坏部、31～36は脚部である。29は坏部の破片で直線的に大きく外反し口縁端部は丸く仕上げている。復元口径は18.2cmを測る。35は脚部端部が一部欠損し、大きく外反し細くなる。36は脚部片でミニチュア土器片である。復元底径は4.6cmを測る。37は土師器坩で口縁～胴部片である。口縁部は直線的に外傾する。端部はやや丸く仕上げられている。38は土師器小鉢か。39は土師器埦で口縁部～体部片である。口縁部は緩やかに内湾し端部はやや丸い。復元口径は15.4cmを測る。40は手づくね土器で壺の胴部片と思われる。内面に指押さえ痕、ナデ調整が見られる。41は小壺の胴部から底部片である。全体的に内、外面とも指圧痕が残る。

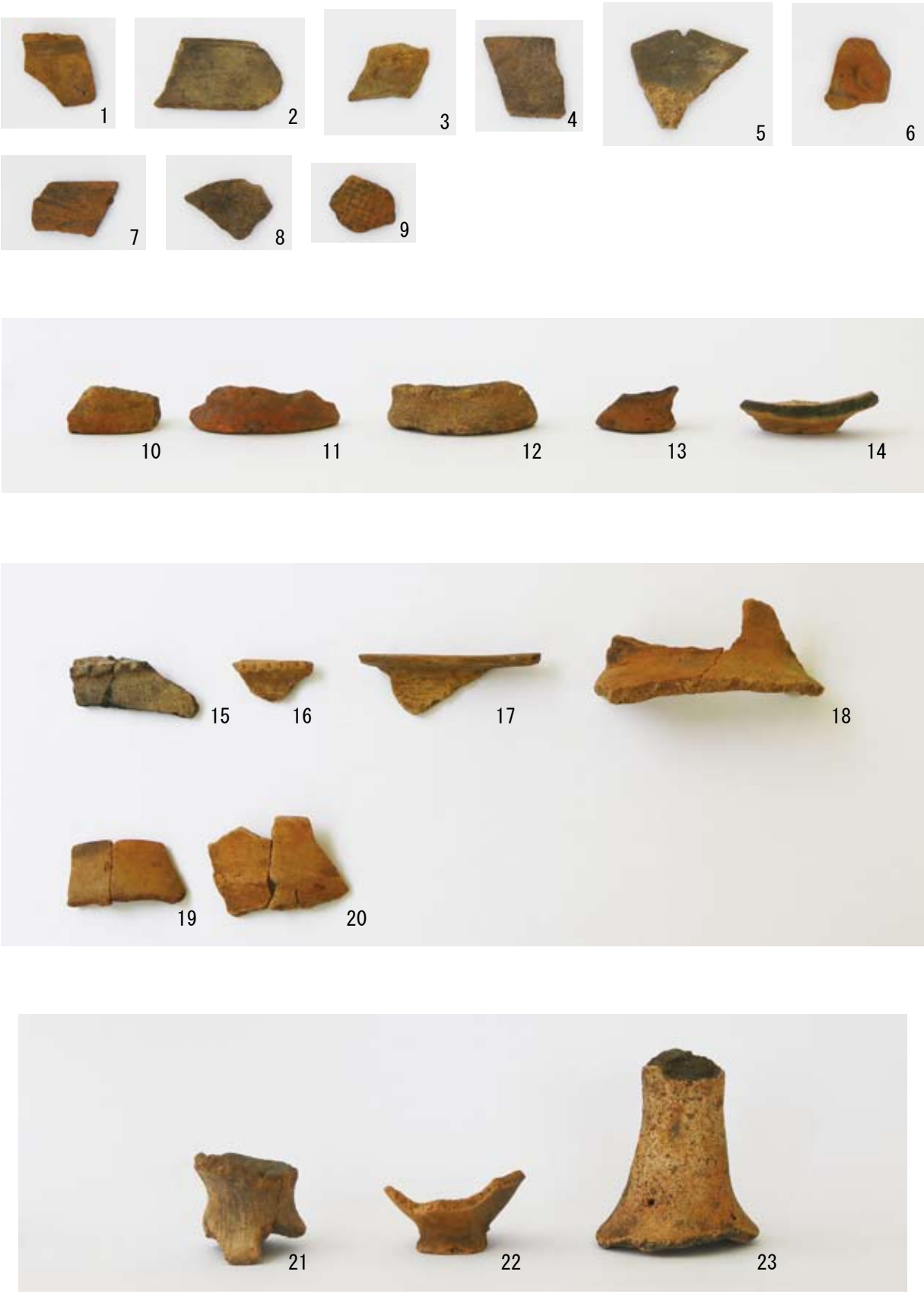
**④石器**

NR01からの出土である。1～4は凹基無茎三角鏃である。1･2は先端部が欠損する。両縁は稚拙な整形剥離を行う。1は針尾産、2は腰岳産の黒曜石である。3･4はほぼ完形で両縁はやや膨らむ。3はサヌカイトで4は腰岳産の黒曜石である。5はスクレーパーでほぼ完形品である。刃部は湾曲し丸みを帯び、基部の一部は欠損する。石材はサヌカイトである。6は砥石で一部欠損をする。石材は砂岩で5面が使用されている。7は滑石製の鍔付型の石鍋口縁部である。鍔部は欠損が激しく復元は厳しい。8は剥片鏃で平基式三角鏃である。縁部は表、裏から剥離調整を行う。腰岳産の黒曜石である。9は凹基式三角鏃で先端部が欠損している。全体的に薄く仕上げる。石材は光沢がない針尾産の黒曜石である。10は凹基式三角鏃の完形品である。石材は腰岳産の黒曜石である。11は石包丁片で両端が欠損している。刃部は片刃で穿孔は2箇所で確認される。1箇所は表裏から孔をあけたことが確認でき、もう1箇所は穿孔の端部が僅かに確認できる程度である。石材は硬質砂岩である。12は凹基式三角鏃である。ほぼ完形品である。先端部、表裏がやや磨耗しており側縁部の一部が欠損する。石材は腰岳産の黒曜石である。13･14は勾玉である。13は完形品で両面をやや平らに磨きをかけている。全長は1.9cmで穿孔は表裏からあけている。石材は蛇紋岩である（註1)。14はほぼ完形品で穿孔部が欠損する勾玉である。長さは0.9cmで蛍光X線分析及び比重測定分析の結果､材質はクロム白雲母であることが判明した。15･16は凹基式三角鏃で15は鍬形鏃である。先端部及び側縁部の一部は欠損する。16は側縁部一部欠損するがほぼ完形品である。石材は腰岳産と思われる。

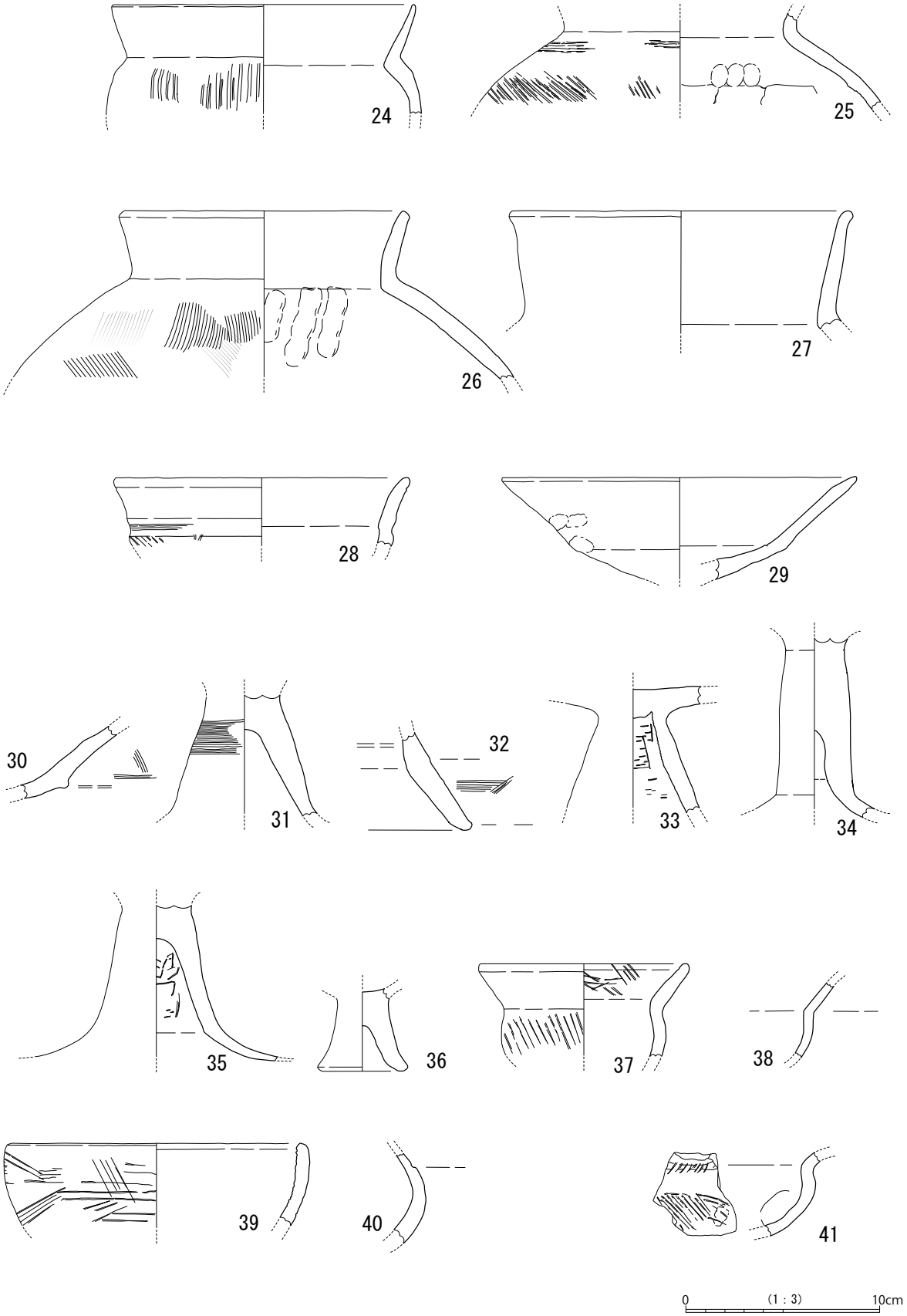
註1:蛇紋岩製勾玉は形状、法量から阿波産の蛇紋岩製弥生小型勾玉の可能性を考えた。しかし結果は阿波産の勾玉ではなかった。阿波産蛇紋岩製勾玉は徳島市矢野遺跡が生産地で長さ2cm未満、抉りが大きくC字形を呈する。色調は灰白色、頭部、尾部が研磨されている。細かな黒色（鉄分）斑点がある等の特徴を有す。この勾玉は北部九州では北九州市『上清水遺跡』宮若市『汐井掛遺跡』唐津市『中原遺跡』から出土し合計5点のみである。蛇紋岩製勾玉の鑑定には元徳島県埋蔵文化財センター理事の菅原康夫氏よりご教示、ご指導を得た。




第23図　NR01 出土土器実測図（1）（1/3）

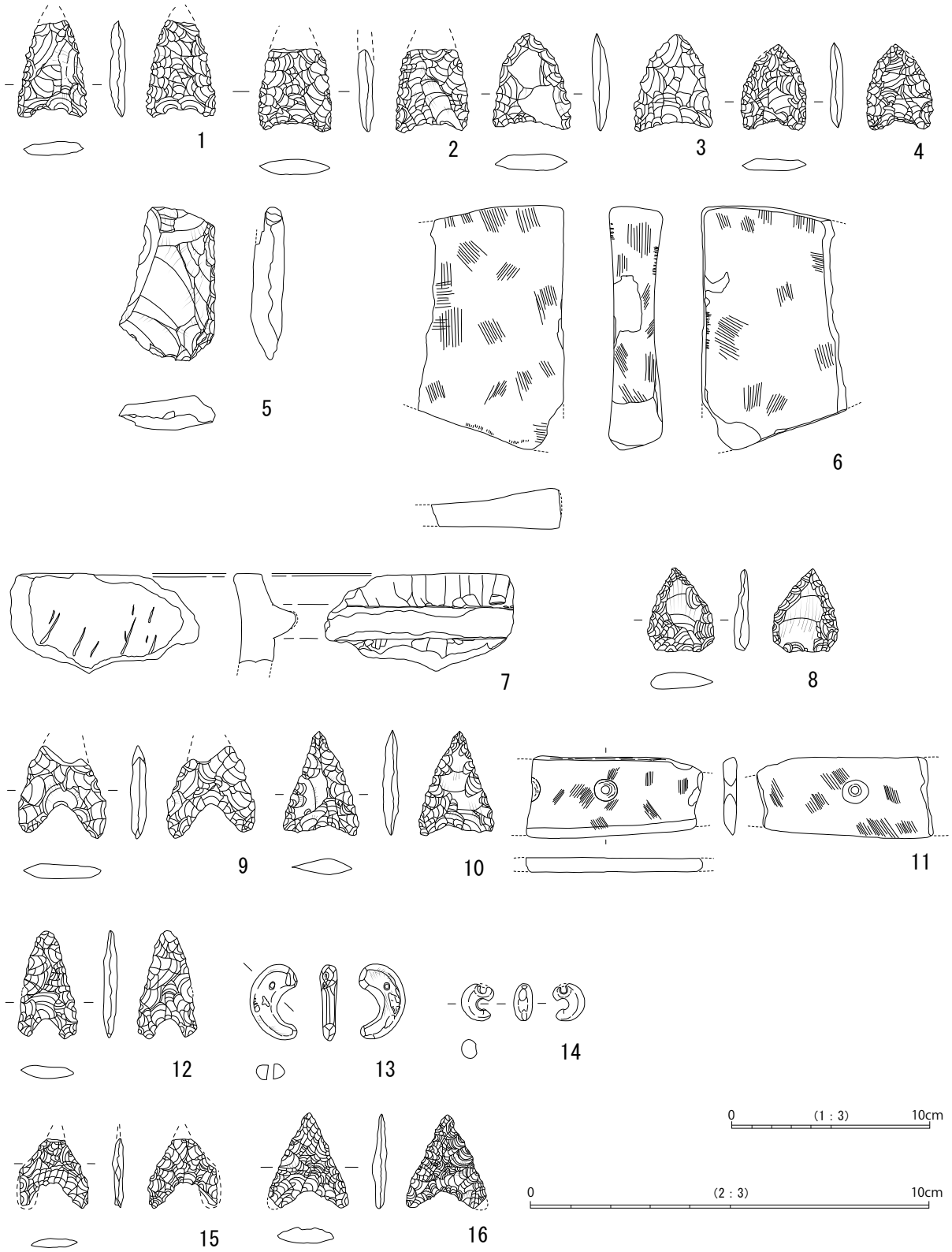



図版52　NR01 出土土器（1）




第24図　NR01 出土土器実測図（2）（1/3）

図版53　NR01 出土土器（2）




第25図　NR01 出土石器実測図（5～7,11は1/3 、1～4,8～10,12～16は2/3）

図版54　NR01 出土石器

## 第2表　NR01出土土器観察表（cm）

| 番号 | 器種 | 時代 | グリット | 層位 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調 | | 胎土 | 焼成 | 調　整　等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 浅鉢 | 縄文早期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 10YR 5/8 黄褐 | 10YR 5/8 黄褐 | 雲母混入 | 良 | 磨研土器　全体にナデ |
| 2 | 浅鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 24.6 | 3.8 | － | 10YR 5/3 にぶい黄褐 | 10YR 5/3 にぶい黄褐 | 雲母、角閃石 | 良 | 黒色磨研土器　全体にミガキ痕 |
| 3 | 浅鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 17.8 | － | － | 2.5Y 6/2 灰黄 | 2.5Y　6/3にぶい黄 | 石英、雲母 | 良 | 磨研土器 |
| 4 | 深鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 19.8 | 4.3 | － | 7.5YR 6/6 橙 | 7.5YR 4/3 褐 | 雲母混入 | 良 | 口縁部　精製 |
| 5 | 中鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 4.8 | － | 10YR 5/3 にぶい黄褐 | 10YR 5/3 にぶい黄褐 | 石英、雲母 | 良 | 口縁部片 |
| 6 | 鉢？ | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 5YR 5/8 明赤褐 | 5YR 5/8 明赤褐 | 雲母混入 | 良 | 口縁部　貼付突帯（二ヶ所） |
| 7 | 浅鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 2.6 | － | 7.5YR 5/6 明褐 | 7.5YR 5/6 明褐 | 雲母混入 | 良 | 条痕文土器　外面ケズリ痕、内面ユビオサエあり |
| 8 | 浅鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 3.2 | － | 10YR 5/4 にぶい黄褐 | 10YR 5/4 にぶい黄褐 | 長石、雲母混入 | 良 | 胴部片　組織痕 |
| 9 | 浅鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 10YR 4/2 灰黄褐 | 2.5YR 6/8 橙 | 石英、雲母混入 | 良 | 胴部片　（網目圧痕）組織痕 |
| 10 | 深鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 2.7 | 10.8 | 10YR 6/4 にぶい黄褐 | 10YR 6/6 明黄褐 | 雲母、角閃石 | 良 | 底部　粗製土器 |
| 11 | 深鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 2.8 | 12.1 | 10YR 5/4 にぶい黄褐 | 7.5YR 5/6明褐 | | 良 | 底部　粗製土器　全体ケズリのちナデ |
| 12 | 深鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 2.8 | 10 | 10YR 7/6 明黄褐 | 10YR 7/6 明黄褐 | 石英、雲母 | 良 | 底部 |
| 13 | 鉢 | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 2.5 | 5.7 | 10YR 4/2 灰黄褐 | 10YR 5/6 黄褐 | | 良 | 底部 |
| 14 | 浅鉢？ | 縄文晩期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 1.9 | 6.7 | 10YR 6/4 にぶい黄褐 | 10YR 6/6 明黄褐 | 金雲母 | 良 | 底部片 |
| 15 | 壺 | 弥生前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 10YR 5/3 にぶい黄褐 | 10YR 6/3にぶい黄橙 | 石英、雲母、長石 | 良 | 胴部片　刻目突帯文土器全体にナデ |
| 16 | 壺？ | 弥生前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 10YR 7/4 にぶい黄橙 | 10YR 7/4 にぶい黄橙 | 雲母混入 | 不良 | 胴部片　刻目突帯文土器 |
| 17 | 甕 | 弥生中期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 25.6 | － | － | 10YR 7/4 にぶい黄橙 | 10YR 7/4 にぶい黄橙 | 石英、長石 | 良 | 鋤先口縁 |
| 18 | 甕 | 弥生後期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 10YR 6/6 明黄褐 | 10YR 6/6 明黄褐 | 石英？ | 不良 | くの字状口縁 |
| 19 | 直口壺 | 弥生後期？ | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 10.4 | 3.7 | － | 7.5YR 5/4 にぶい褐 | 7.5YR 6/6 橙 | 雲母混入 | 良 | 口縁部 |
| 20 | 壺 | 弥生後期？ | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 14.5 | 5.1 | － | 10YR 6/4 にぶい黄橙 | 10YR 6/6 明黄褐 | | 良 | 二重口縁壺 |
| 21 | 台付甕 | 弥生後期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 5.5 | 8.8 | 10YR 6/2 灰黄橙 | 7.5YR 6/4 にぶい橙 | 石英混入 | 良 | 脚部 |
| 22 | 台付鉢 | 弥生終末<br>～古墳初頭 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 4.7 | 6.6 | 7.5YR 6/6 橙 | 7.5YR 5/4 にぶい褐 | 長石？ | 不良 | |
| 23 | 高坏 | 弥生後期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 7.5YR 7/6 橙 | 7.5YR 7/6 橙 | | 良 | 脚部片　穿孔4箇所ありうち1箇所貫通 |
| 24 | 土師器　甕 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 15.6 | － | － | 10YR 5/4 にぶい黄褐 | 7.5YR 3/1黒褐 | | 良 | 口縁部～口頸部片 |
| 25 | 土師器　壺 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 7.5YR 6/6 橙 | 7.5YR 6/6 橙 | 石英 | 良 | 壺口頸部～胴部片 |
| 26 | 土師器　甕 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 14.9 | 8.5 | － | 7.5YR 6/6 橙 | 7.5YR 5/6 明褐 | | 良 | |
| 27 | 土師器　直口壺 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 17.6 | 6.1 | － | 7.5YR 6/4 にぶい橙 | 7.5YR 6/6 橙 | 石英混入 | 良 | |
| 28 | 土師器　直口壺 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 15.2 | 3.5 | － | 10YR 7/4 にぶい黄橙 | 7.5YR 7/6 橙 | | 良 | |
| 29 | 土師器　高坏 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 18.2 | 5.2 | － | 2.5YR 5/6 明赤褐 | 2.5YR 5/6 明赤褐 | 雲母混入 | 良 | 坏部 |
| 30 | 土師器　高坏 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 7.5YR 6/6 橙 | 7.5YR 6/4 にぶい橙 | 石英、雲母購入 | 良 | 坏部 |
| 31 | 土師器　高坏 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 6.2 | － | 5YR 6/6 橙 | 5YR 6/6 橙 | | 不良 | 脚部 |
| 32 | 土師器　高坏 | 古墳前期？ | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 2.5YR 5/6 明赤褐 | 2.5YR 5/6 明赤褐 | 雲母混入 | 良 | 脚部 |
| 33 | 土師器　高坏 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 6.4 | － | 7.5YR 6/6 橙 | 7.5YR 5/8 明褐 | | 良 | 脚部 |
| 34 | 土師器　高坏 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 5YR 7/8 橙 | 5YR 7/8 橙 | 雲母混入 | 不良 | 脚部 |
| 35 | 土師器　高坏 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 7.9 | － | 5YR 6/8 橙 | 7.5YR 6/6 橙 | | 不良 | 脚部 |
| 36 | 土師器　高坏 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | 4.2 | 4.6 | 10YR 7/4 にぶい黄橙 | 10YR 7/5 にぶい黄橙 | | 不良 | 脚部　ミニチュア |
| 37 | 土師器　坩 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 10.8 | － | － | 7.5YR 7/6 橙 | 7.5YR 7/6 橙 | 雲母混入 | 不良 | 口縁～胴部片 |
| 38 | 土師器　小鉢 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 7.5YR 6/6 橙 | 7.5YR 7/6 橙 | 雲母 | 良 | |
| 39 | 土師器　埦 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 15.4 | 4.2 | － | 7.5YR 6/6 橙 | 7.5YR 6/6 橙 | 石英混入 | 良 | 口縁部～体部片 |
| 40 | 土師器手づくね壺 | 古墳中～後期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 10YR 4/3 にぶい黄褐 | 10YR 3/3 暗褐 | 石英、雲母 | 良 | 胴部片 |
| 41 | 土師器　小壺 | 古墳前期 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | － | － | － | 7.5YR 6/6 橙 | 7.5YR 6/6 橙 | 雲母？ | 良 | 胴部～底部片　指圧痕あり |

## 第3表　NR01出土石器観察表（長さ、幅、厚さmm、重さg）

| 番号 | 器種 | 時代 | グリット | 層位 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 材質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石鏃 | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 24 | 17 | 4 | 1.44 | 黒曜石 | 凹基鏃 |
| 2 | 石鏃 | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 20 | 18 | 4 | 1.5 | 黒曜石 | 凹基鏃　基部 |
| 3 | 石鏃 | 縄文晩期？ | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 24 | 20 | 4 | 1.82 | サヌカイト | 凹基鏃　五角形 ほぼ完形 |
| 4 | 石鏃 | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 21 | 16 | 3 | 1.1 | 黒曜石 | 凹基鏃　ほぼ完形 |
| 5 | スクレイパー | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 77 | 48 | 17 | 62.38 | サヌカイト | ほぼ完形 |
| 6 | 砥石 | 不明 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 12.2 | 73 | 27 | 320 | 砂岩 | |
| 7 | 石鍋 | 中世 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 復元口径：20.4cm | | | | 滑石 | 口縁部　鍔付型 |
| 8 | 石鏃 | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 21 | 17 | 4.2 | 1.39 | 黒曜石 | 剥片鏃（平基式） |
| 9 | 石鏃 | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 23 | 22 | 4 | 1.69 | 黒曜石 | 凹基鏃 |
| 10 | 石鏃 | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 26 | 19 | 4 | 1.28 | 黒曜石 | 凹基鏃 |
| 11 | 石包丁 | 弥生 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 41 | 89 | 7 | － | | 片刃　穿孔2ヶ所 |
| 12 | 石鏃 | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 27 | 15 | 3.5 | 1.2 | | 凹基鏃　ほぼ完形 |
| 13 | 勾玉 | 弥生 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 1.9 | 1.2 | 0.4 | － | 蛇紋岩 | 色調：黒色（Hue N 1.5/0） |
| 14 | 勾玉 | 弥生 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 0.9 | 0.8 | 0.5 | － | クロム白雲母 | 色調：緑青色（HVC 4G 5/4.5）（JIS慣用色にて対応） |
| 15 | 石鏃 | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 17 | 17 | 3.5 | 0.58 | 黒曜石 | 凹基鏃（鍬形鏃） |
| 16 | 石鏃 | 縄文 | 2454-2456 | Ⅲ層下 | 2.3 | 2 | － | 1.04 | 黒曜石 | 凹基鏃　ほぼ完形 |

# 第Ⅳ章　その他の遺物

## 第1節　包含層遺物について

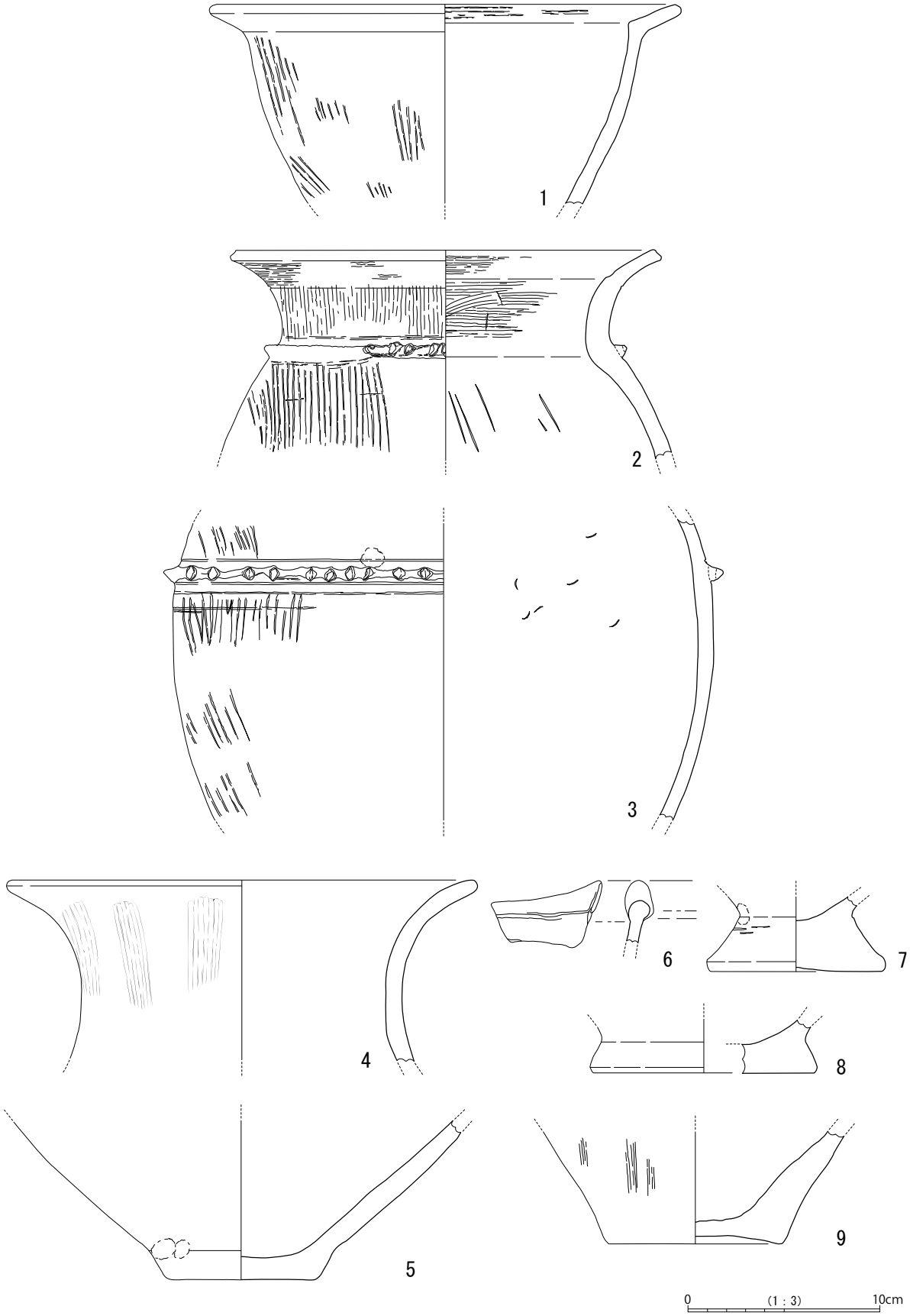
包含層遺物は圧倒的に第Ⅲ層から出土し、2454･2456グリッドから土器集中が見られた。弥生時代の土器及び貿易陶磁が最も多く、その他縄文、近世陶磁が出土した。以下実測図写真を掲載し、その他は一覧表にて説明を行う。（第26･27図）

### （1）土器集中A･B、第Ⅲ層輸入白磁集中地点出土土器

B区の2454グリッドで2箇所の弥生土器等の集中部を確認した。（土器集中A･B）その下部から柱穴2基（SP43･44）を検出した。柱穴は土器集中との関係から弥生後期前半頃と考えられる。なお、後述の出土遺物については、1～3が土器集中A、4･5が土器集中B、6～16が第Ⅲ層、17～21は輸入白磁集中地点から出土したものである。

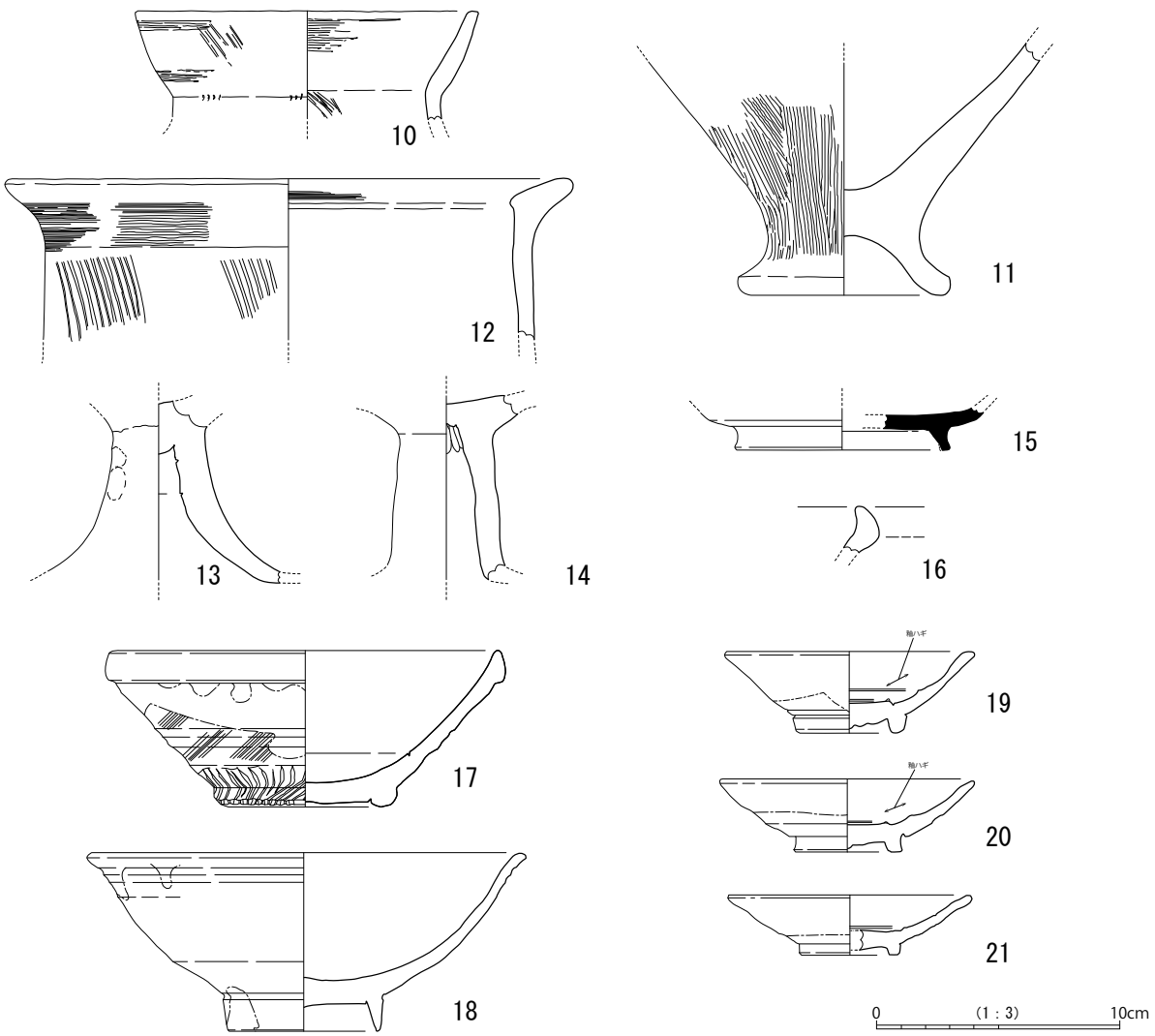
1は弥生鉢口縁部～胴部の破片である。口縁部は丸みのある「くの字状」で、頸部つけねに最大径がある。外面はハケ目調整を施す。しかし全体的に磨耗している。2は弥生壺の口縁部～胴部片である。口頸部に三角突帯を有し右斜め方向に刻み目を施す。外面はヘラ削りの後ナデ調整を施す。3は弥生の壺胴部の破片である。胴部最大径より上方に三角突帯を有し突帯に垂直に刻み目を施し内面に爪痕を有する。4は弥生の広口壺口縁部である。口縁部は外反し端部は丸い。内外とも丹塗りを施し、縦方向の暗文が口縁部外側に施されている。5は4と同一個体の可能性がある。壺の底部で外面は丹塗りを施し、内面にも一部丹塗り痕跡がある。1～5の時期は4･5が中期末～後期前半頃、その他は後期前半頃と考える。

6は縄文晩期のリボン状突起を有する土器で器種は不明である。リボン状突起は半分が欠損している。7･8は深鉢の底部である。9は弥生甕の底部でやや上げ底気味である。10は広口壺の口縁部～頸部にかけての破片である。口縁部はやや直線的に立ち上がり、端部はナデ調整でやや丸く上部は平らである。11は台付甕の底部～胴部片である。底部端部は丸く仕上げられ、上底を呈する。胴部外面に縦方向のハケ目調整を施す。12は弥生甕口縁部～胴部片である。口縁部内側に鋤先口縁の形態を僅かに残す。口縁部は丸みのある「くの字状」を呈する。13･14は高坏脚部で13が開きは大きい。15は須恵器高台付坏の高台部である。16は瓦質土器摺鉢口縁部である。形状及び胎土から東播系土器で丹波窯？13世紀代？か。17･18は白磁の碗でほぼ完形である。17は玉縁口縁で高台と体部の境は、回転ヘラ削りによる削りだしを施す。18は灰白色を呈し全体に貫入が入る。口縁端部は丸くやや外湾する。全体的に器厚は薄い。高台は薄く先端は尖る。19･20･21は直径10cm、器高4cm程の白磁の小皿である。19･20は完形で内側底部は蛇の目状に釉剥ぎを行う。20は全体に貫入が入り、21は口縁部～体部の小片である。




第26図　包含層出土土器実測図（1）（1/3）

図版55　包含層出土土器（1）




第27図　包含層出土土器実測図（2）（1/3）

第4表　包含層出土遺物観察表（cm）

| 番号 | 器種 | 時代 | グリット | 層位 | 口径 | 器高 | 底径 | 色調内面 | 色調外面 | 胎土 | 焼成 | 調　整 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 弥生土器　甕 | 弥生後期 | 2454 | Ⅲ層 | 24.6 | 10.8 | － | 10YR 5/4 にぶい黄褐 | 7.5YR 7/6 橙 | 石英　長石　雲母を含む | 良 | |
| 2 | 弥生土器　壺 | 弥生後期 | 2454 | Ⅲ層 | 24 | 6.6 | － | 10YR 7/4 にぶい黄橙 | 10YR 7/4 にぶい黄橙 | 石英、雲母を含む | 良 | 刻目突帯文　三角突帯 |
| 3 | 弥生土器　壺 | 弥生後期 | 2454 | Ⅲ層 | － | － | － | 10YR 7/3 にぶい黄橙 | 10YR 4/3 にぶい黄褐 | 石英、長石、角閃石、雲母を含む | 良 | 刻目突帯文　三角突帯 |
| 4 | 弥生土器　壺 | 弥生中期末～後期前半 | 2456 | Ⅲ層 | 14.4 | － | － | 2.5YR　5/6 明赤褐 | 2.5YR　5/6 明赤褐 | 砂粒を含む | 良 | 内外とも丹塗り |
| 5 | 弥生土器　壺 | 弥生中期末～後期前半 | 2456 | Ⅲ層 | － | 8.2 | 7.6 | 10YR 8/3　浅黄橙 | 丹塗り | 石英、角閃石、雲母を含む | 良 | 外面丹塗り |
| 6 | リボン状突起 | 縄文晩期 | 2456 | Ⅲ層 | － | － | － | 10YR 6/4 にぶい黄橙 | 10YR 6/4 にぶい黄橙 | 雲母、石英？を含む | 良 | |
| 7 | 縄文土器　深鉢 | 縄文晩期 | 2454 | Ⅲ層 | － | 3.8 | 9.2 | 10YR 7/3 にぶい黄橙 | 7.5YR 6/6 橙 | 石英、雲母、角閃石を含む | 良 | 深鉢底部 |
| 8 | 縄文土器　深鉢 | 縄文晩期 | 2454 | Ⅲ層 | － | 2.8 | 11.8 | 2.5YR 3/1 黒褐 | 7.5YR 6/4　にぶい橙 | 雲母混入 | 良 | 深鉢底部 |
| 9 | 弥生土器　壺 | 弥生 | 2454 | Ⅲ層 | － | － | 9 | 10YR 6/4 にぶい黄橙 | 10YR 6/4 にぶい黄橙 | 石英、長石、角閃石、雲母含む | 良 | |
| 10 | 弥生土器　壺 | 弥生 | 2454 | Ⅲ層 | 10 | 4.4 | － | 10YR 7/3 にぶい黄橙 | 10YR 5/1 褐灰 | 石英、雲母混入 | 良 | |
| 11 | 弥生土器　甕 | 弥生後期 | 2456 | Ⅲ層 | － | 9.6 | 8.6 | 10YR 5/4 にぶい黄褐 | 10YR 5/4 にぶい黄褐 | | 良 | 台付甕 |
| 12 | 弥生土器　甕 | 中期末～後期初 | 2454 | Ⅲ層 | 21 | － | － | 10YR 6/4 にぶい黄橙 | 10YR 6/4 にぶい黄橙 | 角閃石、雲母を含む | 良 | |
| 13 | 土師器　高坏 | 古墳 | 2454 | Ⅲ層 | － | 7.1 | － | 10YR 5/3 にぶい黄褐 | 7.5YR 6/6 橙 | 細かな砂粒を含む | 良 | |
| 14 | 土師器　高坏 | 古墳 | 2454 | Ⅲ層 | － | 7.5 | － | 7.5YR 5/8 明褐 | 7.5YR 5/8 明褐 | 細かな砂粒を含む | 良 | |
| 15 | 須恵器　台付坏 | 古代 | 2454 | Ⅲ層 | － | 1.7 | 8.8 | N 5/0 灰 | N 5/0 灰 | 砂粒を含む | 良 | |
| 16 | 瓦質土器　摺鉢 | 13世紀 | 2454 | Ⅲ層 | － | － | － | N 7/　灰白 | N5/　灰 | 砂粒を含む | 良 | 東播磨系　丹波窯？ |
| 17 | 白磁　碗 | 11世紀後半頃 | 2456 | Ⅲ層 | 15.9 | 6.4 | 6.2 | 7.5Y 7/2 灰白 | 7.5Y 7/2 灰白 | 細かな砂粒を含む | 良 | 玉縁口縁 |
| 18 | 白磁　碗 | 11世紀後～１２世紀前半 | 2456 | Ⅲ層 | 17.9 | 7.3 | 6.2 | 5Y 7/2 灰白 | 5Y 7/2 灰白 | 細かな砂粒を含む | 良 | 全体に貫入 |
| 19 | 白磁　皿 | 12世紀後半 | 2456 | Ⅲ層 | 10.2 | 3.3 | 4.4 | 2.5GY 7/1 明オリーブ灰 | 2.5GY 7/1 明オリーブ灰 | 細かな砂粒を含む | 良 | |
| 20 | 白磁　皿 | 12世紀後半 | 2456 | Ⅲ層 | 10.4 | 2.95 | 4.4 | 5Y 7/2 灰白 | 5Y 7/2 灰白 | 細かな砂粒を含む | 良 | 全体に貫入 |
| 21 | 白磁　皿 | 12世紀後半 | 2454 | Ⅲ層 | 9.8 | 2.4 | 4 | | | 細かな砂粒を含む | 良 | |

図版56　包含層出土土器（2）

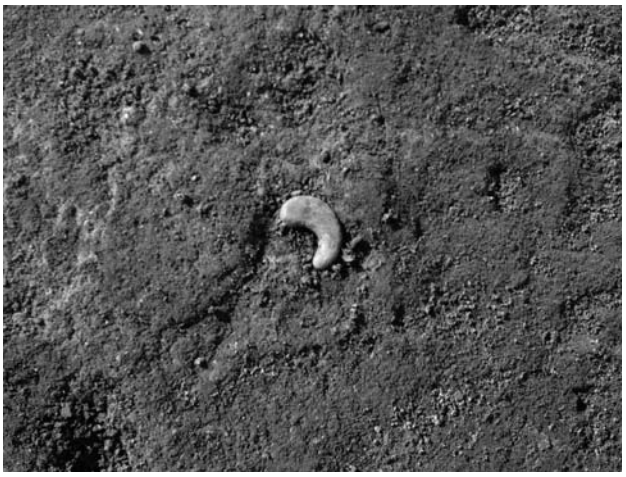
# 第Ⅴ章　まとめ

今回の調査では、調査区域が近年まで幾度となく自然災害の影響を受けていることが確認された。調査区中央から南寄りでは耕作土直下で礫層が検出された。包含層を切りこんで調査区内を東西に抜けており、断面観察から少なくとも近世まで複数回の土石流等が起こったものと考えられる。

全体的に遺構の密度も薄く、居住関連施設が確認されなかったこと、主な遺構は土坑、柱穴であったことから当区域は居住にむかなかったものと思われる。しかしながら、遺物の出土状況からは近隣に居住域が存在したことがうかがえる。調査区周辺から現在の郡川河道にいたる低地の中で調査区北側の住宅地は微高地となっており、遺物の分布が調査範囲内の北東部分に偏っていたことを合わせると、すくなくとも弥生時代後期～古墳時代前期にはこの微高地上に居住域が存在したものと考えられる。

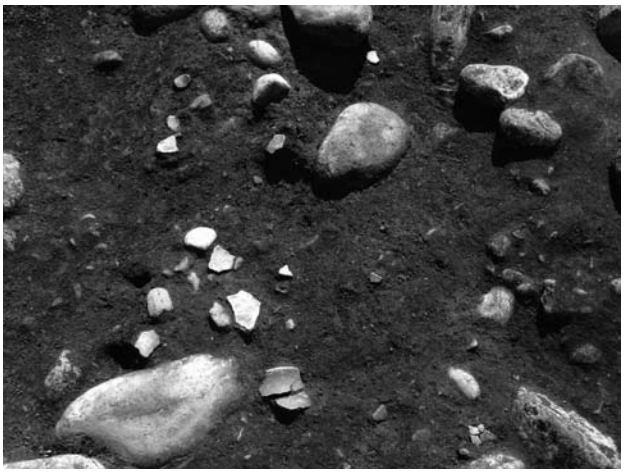
（山梨）

図版57　遺物出土状況（輸入白磁）



図版58　遺物出土状況（勾玉）

図版59　遺物出土状況（土器集中A）



図版60　遺物出土状況（土器集中B）

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | お ろ ぐち いせき |
| 書 名 | 小 路 口 遺跡 |
| 副 書 名 | 都市計画道路池田沖田線街路改築工事を伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻 次 | Ⅰ |
| シ リ ー ズ 名 | 長崎県文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第213集 |
| 編 著 者 名 | 山梨千晶　中川潤次 |
| 編 集 機 関 | 長崎県教育委員会 |
| 所 在 地 | 〒850-8570　長崎県長崎市江戸町２番13号　TEL095-824-1111 |
| 発 行 年 月 | 2017年2月 |

| 所収遺跡名（ふりがな） | 所在地（ふりがな） | コード | | 北緯 °′″ | 東経 °′″ | 調査期間 | 調査面積 ㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 小路口遺跡（おろぐちいせき） | 長崎県（ながさきけん） | 42205 | 092 | 32°<br>56′<br>34″ | 129°<br>57′<br>17″ | 20130708～<br>20131030 | 2,000 | 道路建設 |

| 所収遺跡名 | 種 別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 小路口遺跡 | 遺物包含地 | 縄文<br>弥生<br>古墳<br>中世<br>近世 | ・土坑　柱穴<br>・縄文～中世の遺物包含層 | ・縄文土器<br>・弥生土器<br>・土師器<br>・瓦質土器<br>・貿易陶磁器<br>・近世陶磁器<br>・各時代の石器 | 小路口遺跡の東端に位置する事から遺構は少ない。 |

長崎県文化財調査報告書第213集

小　路　口　遺　跡

平成29年2月発行

発行者　長崎県教育委員会
〒850-8570 長崎市江戸町2番13号
TEL095-824-1111（代表）
印刷所　オムロプリント株式会社